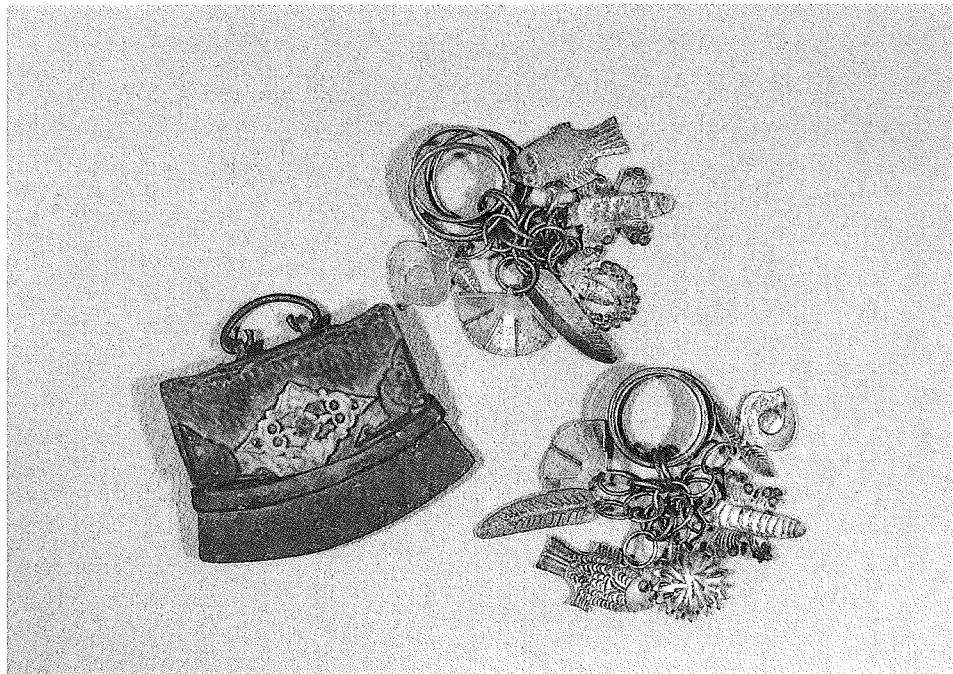


ISSN 0385-0293

# 沖縄県立博物館年報

No.36



2003

沖縄県立博物館

## 表紙 指輪・火打ち金

指輪の房飾りは、長寿や富貴を意味する吉祥文様（羽・桃・蝶・魚・扇・三つ葉）で構成されています。火打ち金は、真鍮製の菱形模様の彫金が施されており、がま口部分は火種になる綿をいれるところです。那覇市小禄在住の大田征夫氏からご寄贈いただきました。

## 序

沖縄県立博物館は昭和 30 年の創立以来、県を中心とする自然や歴史・文化に関する収集・整理保管、展示を行うとともに、沖縄の歴史や文化に関する特別展や企画展をはじめ、各種講座や体験学習、博物館シアターおよび移動博物館など様々な事業をとおして、県民に親しまれる博物館づくりに努めて参りました。

特に昨年は、復帰 30 周年の節目にあたり、世界的にも貴重な化石人骨である港川人をとりあげ、元祖ウチナーンチュを探る特別展「港川人展」を開催し、好評のうちに終了することができました。また、企画展「沖縄ナースものがたり」展では、戦後沖縄の看護教育史を通して、戦後の復興に努力した県民の姿を紹介いたしました。その他、博物館活動の大きな柱であります教育普及事業では、移動博物館を多良間村で開催し、体験学習教室や文化講座、博物館シアターなど、多くの皆様とふれあい交流をもつことができました。

ところで、現博物館も築後 36 年が経ち、その移転整備が強く望まれていたところであります。昨年の 12 月には「復帰 30 周年記念事業」として位置づけられ、いよいよ待望の博物館新館の夢も実現する運びとなりました。展示の手法にも新たな開発が進んでいる今日、これまで蓄積してきた成果を踏まえ、さらなる飛躍に向かって努力して参りたいと存じます。

今後とも当館へのより一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

平成 15 年 6 月  
沖縄県立博物館  
館長 當 真 嗣 一

# 目 次

## 序

### I 概 要

1 沿革	1
2 日誌(抄)	3
3 施設・設備	4
4 組織	6
5 沖縄県立博物館協議会	8
6 予算	9

### II 入館者数

1 入館者数	10
2 県内外児童生徒学生団体見学者	13

### III 調査研究等の活動

1 調査研究の概要	15
小浜島総合調査	15
2 調査研究	17
3 講演等	18
4 著作論文等	19
5 職員研修	20

### IV 展示活動

1 展示活動の概要	21
2 常設展	21
3 特別展(港川人展)	25
4 企画展(新収蔵品展)	29
(文化財展・県庁ロビー展・ミニパネル展)	31
(ナース展)	33
5 移動博物館	35

### V 教育普及活動

1 教育普及活動の概要	40
2 博物館文化講座	41
3 衛星通信を利用した子供放送局	43
4 博物館シアター	44
6 博物館体験学習教室	45
7 ボランティア活動	47
8 支援活動	48

### VI 博物館実習

### VII 資料の収集・保存管理

1 収蔵資料現在高	51
2 2002(平成14)年度新収蔵資料高	51
3 2002(平成14)年度収蔵資料目録	52
4 所蔵の指定文化財	53
5 収蔵資料整理事業	54
6 資料貸出	55
7 燻蒸処理	57

### VIII 刊行物

### IX その他の活動

1 沖縄県博物館協会	59
2 沖縄県立博物館友の会	59

### X 関係法規抄録

# I 概 要

## 1 沿革

### 〔前史〕

昭和 11 年（1936）沖縄縣教育會附設として旧首里城北殿を利用して「郷土博物館」が創設されたが、昭和 20 年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和 20 年 8 月、米国海軍軍政府は石川市東恩納の地に「沖縄陳列館」を設立した。また、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、昭和 21 年首里の汀良に「首里市立郷土博物館」が設立された。

### 〔創設〕

昭和 21 年（1946）4 月 24 日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、「東恩納博物館」と改称して、新発足。これが当館の創立にあたる。

### 〔発展〕

昭和 28 年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同 30 年（1955）には「琉球政府立博物館」に改称する。また、同 41 年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同 47 年（1972）の日本復帰に伴い名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌 48 年（1973）、2 階部を増築し展示スペースを拡充し、現在に至る。

### 〔あゆみ〕

- 昭和 21 年（1946）4 月 24 日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。
- 昭和 22 年（1947）12 月、前年に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管。「沖縄民政府立首里博物館」に改称される。
- 昭和 28 年（1953）3 月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。5 月、首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館完成。米民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環としてペルリ記念館も同博物館に附設して落成、贈呈される。
- 昭和 30 年（1955）9 月「沖縄民政府立首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称。
- 昭和 40 年（1965）大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入。
- 昭和 41 年（1966）10 月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し、移転。11 月に開館。
- 昭和 47 年（1972）2 月、サントリー美術館との共催で、「50 年前の沖縄」写真展を開催。5 月、日本復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称。
- 昭和 48 年（1973）2 月、国庫補助により 2 階部を増築し、展示室を 3 室増設。
- 昭和 51 年（1976）4 月、創立 30 周年記念式典を行う。
- 昭和 55 年（1980）1 月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。
- 2 月、「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後毎年離島市町村で実施。
- 11 月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。
- 昭和 56 年（1981）3 月 30 日付け、博物館法に基づき、沖縄県の「登録博物館」として登録。
- 10 月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催。
- 昭和 57 年（1982）5 月、新たに常設展として自然部門を設置。
- 10 月、特別展「熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化」開催。
- 昭和 58 年（1983）11 月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美—風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催。
- 昭和 60 年（1984）11 月、特別展「グスク—グスクが語る古代琉球の歴史とロマン」開催

- 昭和 61 年（1986） 2 月、特別展「美術工芸の美を求めて一大嶺薰コレクション」開催。
- 昭和 62 年（1987） 10 月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画一物故作家」開催。  
12 月、企画展「田名家収蔵品展—ある首里士族の 400 年」開催。  
12 月、企画展「現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション」開催。
- 昭和 63 年（1988） 8 月、特別展「ヤンバルの自然」開催。  
11 月、特別展「三線名器 100 挺展」開催。
- 平成元年（1989） 11 月、特別展「インドネシアの更紗展」開催。
- 平成 2 年（1990） 1 月、特別展「大アンデス文明展」開催。
- 平成 3 年（1991） 10 月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催。
- 平成 4 年（1992） 6 月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。  
8 月、特別展「沖縄の貝類展」開催。  
10 月、特別展「琉球王国展」開催。
- 平成 5 年（1993） 1 月、特別展「尚家繼承琉球王朝文化遺産展」開催。  
8 月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。
- 平成 6 年（1994） 7 月、特別展「子どもの世界」開催。
- 平成 7 年（1995） 6 月、戦後 50 周年記念特別展「蘇る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。
- 平成 8 年（1996） 7 月、特別展「大久米島展」開催。  
12 月、企画展「沖縄県立博物館 50 年の歩み」開催。  
創立 50 周年式典を行う。
- 平成 9 年（1997） 4 月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催。
- 平成 10 年（1998） 7 月、企画展「琉球王国時代の植物標本展」開催。  
11 月、特別展「包むこころ ふろしき展」開催。
- 平成 11 年（1999） 8 月、特別展「三線のひろがりと可能性展」開催。  
10 月、企画展「日本の技—伝統のかたち」（第 7 回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」巡回展）
- 平成 12 年（2000） 2 月、企画展「工芸王国—きらめく手わざの世界を沖縄から」展開催。  
7 月、特別展サミット開催記念「大琉球展」開催。  
11 月、特別展ハイ移民 100 周年記念「日系移民 1 世紀展」開催
- 平成 13 年（2001） 3 月、企画展「工芸王国一人・技・心」展開催  
11 月、特別展「かぎりとかたち展」開催
- 平成 14 年（2002） 9 月、特別展「港川人展」開催  
10 月、企画展「沖縄の文化財展」開催
- 平成 15 年（2003） 2 月、企画展「おきなわナースものがたり」開催

### 〔歴代館長〕

**東恩納博物館・首里博物館**

大嶺 薫（昭和 21 年 4 月～28 年 3 月・東恩納博物館）

豊平 良顯（昭和 22 年 12 月～23 年 3 月・首里博物館）

原田 貞吉（昭和 23 年 8 月～28 年 3 月・  
）

**沖縄民政府立首里博物館**

原田 貞吉（昭和 28 年 3 月～30 年 5 月）

**琉球政府立博物館**

山里 永吉（昭和 30 年 5 月～33 年 8 月）

金城増太郎（昭和 33 年 9 月～36 年 12 月）

大城 知善（昭和 37 年 2 月～44 年 11 月）

外間 正幸（昭和 44 年 12 月～47 年 4 月）

## 沖縄県立博物館

外間 正幸 (昭和47年5月～56年3月)	糸数 兼治 (平成6年4月～8年3月)
大城徳次郎 (昭和56年4月～58年3月)	當間 一郎 (平成8年4月～11年3月)
大城 立裕 (昭和58年4月～61年3月)	大城 将保 (平成11年4月～12年3月)
大城 宗清 (昭和61年4月～平成4年3月)	平田 與進 (平成12年4月～14年3月)
宜保榮治郎 (平成4年4月～6年3月)	當眞 嗣一 (平成14年4月～)

## 2 日誌抄 (平成14年4月1日～平成15年3月31日)

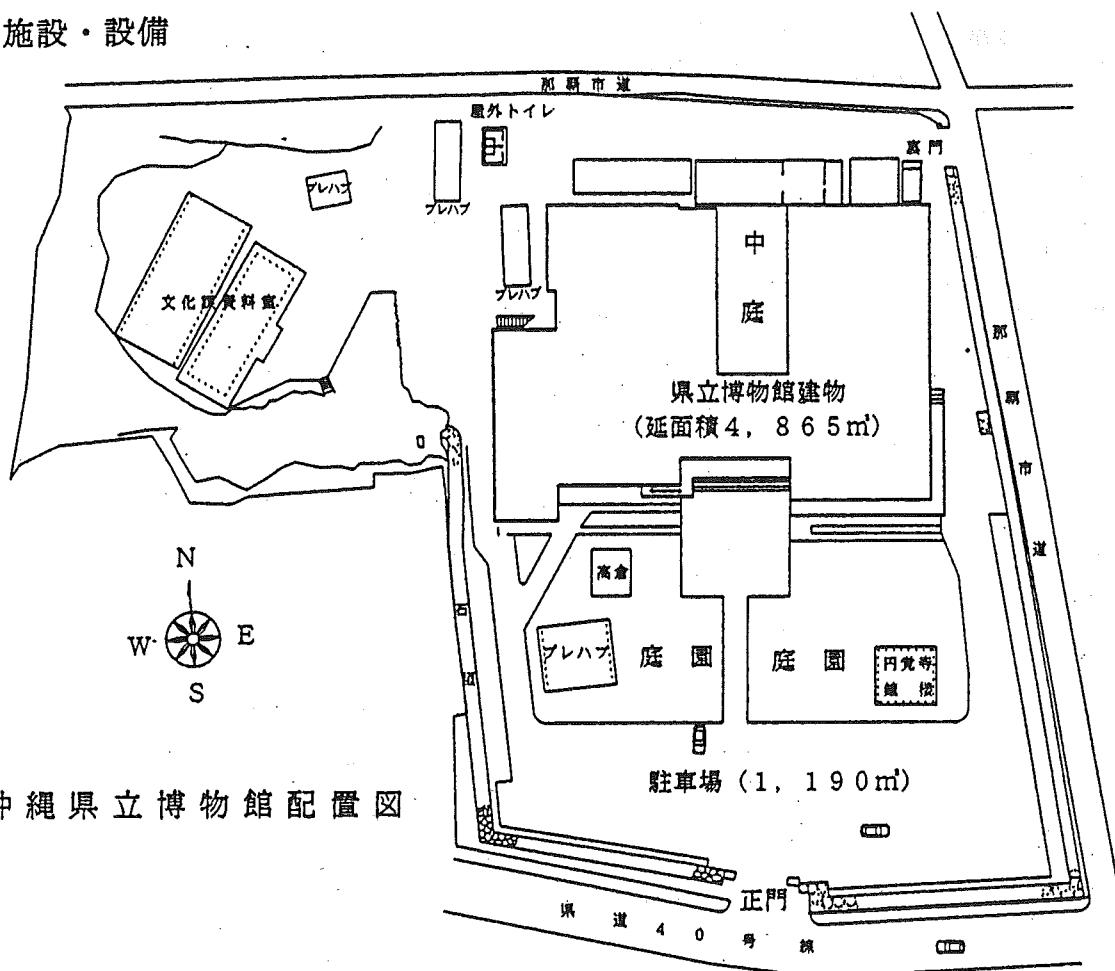
平成14年

- 5月 1日 中国第一歴史档案館副館長来館  
18日 國際博物館の日  
22日 県定期監査（職員監査）実施（副参事外間政秀、主幹松永廣満）  
23日 平成14年度沖博協理事会・総会（首里公民館）  
27日 第1回博物館学芸員実習、10名、6／7迄  
6月 10日 県委員監査、伊波榮徳委員、事務局参事祝嶺春武  
12日 平成14年度九博協理事会・総会（熊本市）14日迄、館長他2名参加  
21日 平成14年度移動博（多良間村）22日迄  
7月 23日 企画展「平成13年度新収蔵品展」開会、8／11迄  
25日 公文書館運営審議員視察  
8月 20日 特別展「港川人展」開会、9／29日迄  
24日 シンポジウム「港川人の世界」開催  
9月 5日 台風16号による被害（屋上防水シート、空調機等）  
19日 中国地区東京事務所長会視察  
々 日 日本芸術文化振興会（安藤裕之）来館  
10月 17日 沖博協秋期研修会（石垣市）18日迄  
21日 第2回博物館学芸員実習、8名、11／1迄  
25日 中国第一歴史档案館館長来館  
29日 企画展「沖縄の文化財展」開会、11／24迄  
々 日 兵庫県知事（井戸敏三）来館  
11月 1日 大分市歴史資料館館長来館  
3日 「文化の日」入館料無料、入館者数1,735人  
17日 福井県知事来館  
22日 県文化財保護審議会第1専門部会、資料調査  
26日 国立美術館職員来館2名  
12月 3日 煙蒸作業の為休館、6日迄  
6日 文部科学省社会教育課長（折原守）来館  
18日 日博協顕彰表彰伝達式（玉那霸有公氏）  
19日 平成14年度第1回沖縄県立博物館協議会  
20日 世界遺産シリーズ記念切手の贈呈式（首里郵便局長より）

平成15年

- 2月 4日 企画展「沖縄ナースものがたり」開会3／23迄  
6日 平成14年度消防訓練実施  
27日 福岡高等検察庁検事長（加納駿亮）来館  
3月 6日 法政大学国際日本学研究所長（中野榮夫）来館  
12日 衆議院議長公邸長（谷内眞次）来館  
19日 平成14年度第2回沖縄県立博物館協議会

### 3 施設・設備

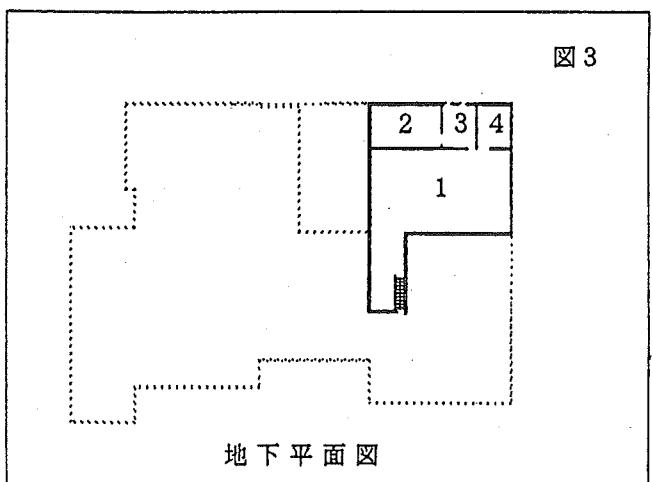
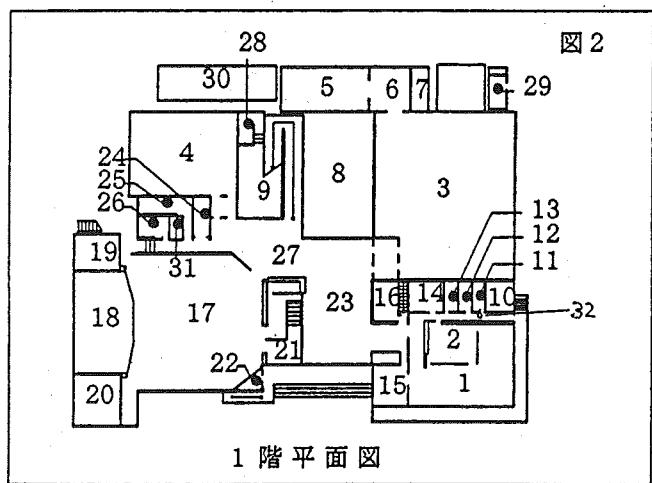
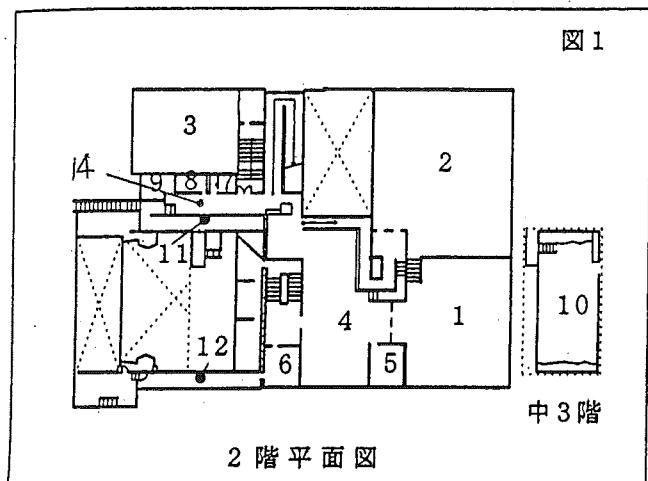


沖縄県立博物館配置図

### 施設の規模

★敷地面積	11,267 m <sup>2</sup>
★建物延べ面積	4,865 m <sup>2</sup>
1階及び講堂部分	2,530 m <sup>2</sup>
2階部分	1,926 m <sup>2</sup>
地下部分	409 m <sup>2</sup>
★展示面積	1,590 m <sup>2</sup>
1階	632 m <sup>2</sup>
2階	958 m <sup>2</sup>
★ロビー面積	415 m <sup>2</sup> (非常口への廊下も含む)
★収蔵庫面積	1,048 m <sup>2</sup>
★駐車場面積	1,190 m <sup>2</sup>
★庭園面積	1,612 m <sup>2</sup>
★講堂	608 m <sup>2</sup> 客席数 235 席

★空調能力	ウォーターチーリングユニット《空冷式》 125,000 Kcal/h × 2基
エアハンドリングユニット	6基 161,028 Kcal/h (講堂用) 34,658 Kcal/h (第3・4展示室系) 30,000 Kcal/h (第1展示室系統) 25,830 Kcal/h (地下収蔵庫) 21,270 Kcal/h (1階収蔵庫) 18,263 Kcal/h (第2展示室系統)
パッケージ型ユニット	4台
★受電設備	電灯用 T r ··· 1 φ 3W 30KVA × 1基 電灯・動力 T r ··· 3 φ 4W 100KVA × 1基 動力 ······ 3 φ 3W 250KVA × 1基
★契約電力	225 KW



### 【2階】

番号	室名	
1	美術工芸展示室	274 m <sup>2</sup>
2	民俗展示室	446 m <sup>2</sup>
3	漆器収蔵庫	170 m <sup>2</sup>
4	企画展示室	257 m <sup>2</sup>
5	空調機械室	29 m <sup>2</sup>
6	コンピューター室	38 m <sup>2</sup>
7	化粧室(女)	6 m <sup>2</sup>
8	化粧室(男)	10 m <sup>2</sup>
9	空調機械室	17 m <sup>2</sup>
10	化石収蔵庫(中3階)	120 m <sup>2</sup>
11	貝類収蔵庫	35 m <sup>2</sup>
12	陶器収蔵庫	38 m <sup>2</sup>
13	スロープ	75 m <sup>2</sup>
14	廊下	57 m <sup>2</sup>

### 【1階】

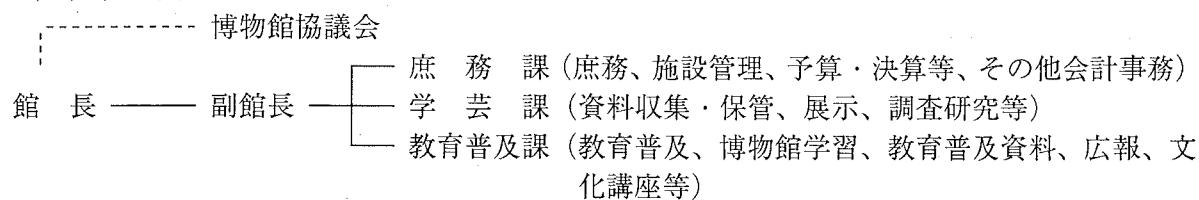
番号	室名	
1	事務室	130 m <sup>2</sup>
2	会議室	40 m <sup>2</sup>
3	考古・歴史展示室	466 m <sup>2</sup>
4	自然史展示室	189 m <sup>2</sup>
5	収蔵庫	120 m <sup>2</sup>
6	荷解場	32 m <sup>2</sup>
7	陶磁器収蔵庫	11 m <sup>2</sup>
8	中庭	152 m <sup>2</sup>
9	厨子甕収蔵庫	91 m <sup>2</sup>
10	休憩室	16 m <sup>2</sup>
11	湯沸室	8 m <sup>2</sup>
12	化粧室(女)	8 m <sup>2</sup>
13	化粧室(男)	9 m <sup>2</sup>
14	図書室	21 m <sup>2</sup>
15	館長兼応接室	26 m <sup>2</sup>
16	案内コーナー	20 m <sup>2</sup>
17	講堂(客席)	376 m <sup>2</sup>
18	ステージ	128 m <sup>2</sup>
19	控室	19 m <sup>2</sup>
20	控室	37 m <sup>2</sup>
21	講堂出入口	48 m <sup>2</sup>
22	守衛室	7 m <sup>2</sup>
23	ロビー	415 m <sup>2</sup>
24	倉庫	14 m <sup>2</sup>
25	化粧室(女)	24 m <sup>2</sup>
26	化粧室(男)	15 m <sup>2</sup>
27	友の会売店	10 m <sup>2</sup>
28	空調機械室	11 m <sup>2</sup>
29	消火栓ポンプ室	5 m <sup>2</sup>
30	厨子甕収蔵庫	75 m <sup>2</sup>
31	障害者用トイレ	7 m <sup>2</sup>
32	廊下(裏口用)	18 m <sup>2</sup>

### 【地下】

番号	室名	
1	収蔵庫	290 m <sup>2</sup>
2	空調機械室	61 m <sup>2</sup>
3	荷解場	28 m <sup>2</sup>
4	受変電設備	30 m <sup>2</sup>

## 4 組織 (平成 15 年 4 月 1 日現在)

### (1) 組織



### (2) 職員構成

職名	氏名	担当業務
館長	當眞 嗣一	博物館業務の総理に関すること。
副館長	友利 克実	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関するこ と。

#### 庶務課

副館長兼庶務課長	友利 克実	庶務課の総括、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、沖縄県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関すること。
主査	外間 廣子	歳出事務、決算事務、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他の庶務に関すること。
主査	金城 博之	給与、歳入、諸手当の認定、出勤簿整理、非常勤職員の任用申請、入館料免除に関する事、図書類、消耗品受入、文書等の収受、切手等の管理、その他庶務に関する事。
主任技師	平良 盛明	施設設備の保守管理、全館薰蒸、車両の管理、防火管理補助、備品・その他庶務に関する事。

#### 学芸課

主幹兼課長	津波古 聰	学芸業務全般の総括、学芸員会議、学芸員研修、博物館学芸員実習、沖縄県博物館協会、九国博建設支援事業、博物館新館建設に関する事、美術工芸資料に関する事。
指導主事	赤嶺 敏	美術工芸資料（染織・書籍）、収蔵品台帳、博物館資料購入・修理、博物館新館に関する事。特別企画展「沖縄織物へのメッセージ」に関する事。
学芸員（臨任）	新里 彩	歴史資料、博物館資料購入・修理、レプリカ作成、博物館資料・写真資料貸出、博物館『年報』の発行に関する事。企画展に関する事。
学芸員	仲座 久宜	考古資料、収蔵資料整理、新館移転資料整理、移動博物館に関する事。
指導主事	座霸 泰	自然史資料（地質・化石）、化石資料整理、図書資料購入、県庁ロビー展、沖縄県博物館協会に関する事。
指導主事（充）	嵩原 健二	自然史資料（動・植物）、収蔵資料整理事業、企画展、薰蒸、新館移転資料整理、剥製標本作製事業に関する事。
指導主事（充）	田中 聰	自然史資料（動・植物）、総合調査（小浜島）、博物館紀要発行、新収蔵品展、沖縄県博物館協会に関する事。
指導主事（充）	久場 政彦	民族資料、収蔵資料整理、新収蔵品展、新館移転資料整理、民族学博物館の展示に関する事。

### 教育普及課

主幹兼課長	上地 弘伸	教育普及業務の総括、友の会への指導に関すること。ボランティア活動事業（登録含む）
指導主事 (充)	伊波 一男	移動博物館、博物館シアター、団体見学の対応（中学生）、ポスター・チラシ等の作成、視聴覚器材（ソフト）の保全・管理、行事案内。
指導主事 (充)	玉城 善哲	博物館体験学習教室、博物館学習の助言・調整、団体見学の対応（小学生）、博物館展示リーフレットの作成、子供からの手紙相談に関すること。
学芸員 (臨任)	兼島 吟枝	文化講座、広報活動（マスコミ記者会見等）、文化講座・博物館だよりの発行、アンケート調査・回答、団体見学の対応（高校生）。

### 委託職員

教育普及 補助員	喜久川 智子 赤嶺 新子	教育普及、展示解説、寄贈図書受入れに関すること。
監視員	當眞 哲子 金城 民子 伊波 芙美子 小橋川 敏子 島袋 千恵子 大城 弘子	受付補助及び展示場監視に関すること。
緑化整備員	金城 朝正	緑化整備に関すること。

### 沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計に関すること。
-------	--------	--------------------

### 3) 人事異動

平成 15 年 4 月 1 日現在

職名	氏名	摘要
<b>【転出】</b>		
副館長兼庶務課長	森山 晃	名護青年の家、所長
教育普及課長	前田 真之	坂田小学校、校長（昇任）
主任指導主事	桃原 茂夫	糸満高等学校、教頭
指導主事	瑞慶山 昇	仲西中学校、教諭
〃	宮城 勉	北中城高等学校、教諭
主任学芸員	與那嶺 一子	文化施設建設室
主任	園原 謙	〃 （併任解く）
主事	木村 達	総務課、主任（昇任）
<b>【転入】</b>		
副館長兼庶務課長	友利 克実	保健体育課、課長補佐（昇任）
主幹兼教育普及課長	上地 弘伸	久米島中学校、教頭
指導主事	伊波 一男	今帰仁小学校、教頭
〃	久場 政彦	首里高等学校、教諭
〃	座霸 泰	北中城高等学校、教諭
〃	赤嶺 敏	松城中学校、教諭
主事	金城 博之	財務課、主事

## 5 沖縄県立博物館協議会

第1回 日 時：平成14年12月19日（木） 14:00～16:30

場 所：県立博物館会議室

委嘱状交付、会長・副会長の選出

会議事項

1. 平成14年度博物館事業説明について

(1) 平成14年度事業概要

(2) 学芸課事業について

(3) 教育普及課事業について

2. その他

(1) 博物館新館建設について

(2) 意見・情報交換

第2回 日 時：平成15年 3月19日（水） 14:00～16:30

場 所：県立博物館会議室

会議事項

1. 平成15年度博物館事業説明

(1) 平成15年度当初予算について

(2) 学芸課事業について

(3) 教育普及課事業について

2. その他

(1) 新館建設進捗状況について

(2) 情報交換

沖縄県立博物館協議会委員会名簿（平成14年12月15日～平成16年12月14日）

	氏 名	所 属	職 名
学識経験者	翁長 自修	元琉球大学教授 (美術工芸)	名誉教授
	新城 和治	元琉球大学教授 (自然史)	元教授
	金城 正篤	沖縄大学教授 (歴史)	教 授
	嵩元 政秀	沖縄考古学会 (考古学)	元会長
	津波 高志	琉球大学教授 (民俗)	教 授
学校教育関係者	垣花 正男	沖縄県小学校長会	副会長
	神谷 乗仁	沖縄県中学校長会	副会長
社会教育関係者	仲地 朝明	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会 長
	喜納 兼功	沖縄県P.T.A連合会	会 長
	長間 高子	沖縄県子ども会育成連絡協議会	事務局長

## 6 予算

平成14年度博物館費（決算）

(単位：円)

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	167,400	0	167,400
賃金	0	1,789,960	1,789,960
報償費	0	394,000	394,000
旅費	617,000	2,581,979	3,198,979
需用費	20,620,539	5,762,000	26,382,539
役務費	1,034,948	2,258,413	3,293,361
委託料	18,279,150	7,192,374	25,471,524
使用料及び賃借料	94,374	445,440	539,814
備品購入費	200,000	0	200,000
負担金補助及び交付金	75,000	0	75,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	41,107,311	20,424,166	61,531,477

平成14年度歳入状況

(単位：円)

	友の会等	特別展等	合計
博物館使用料	0	9,360,970	9,360,970
土地使用料	83,446	0	83,446
建物使用料	47,835	0	47,835
雜入	86,326	0	86,326
合計	217,607	9,360,970	9,578,577

II 入館者数  
1 入館者数  
入館者月別集計

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

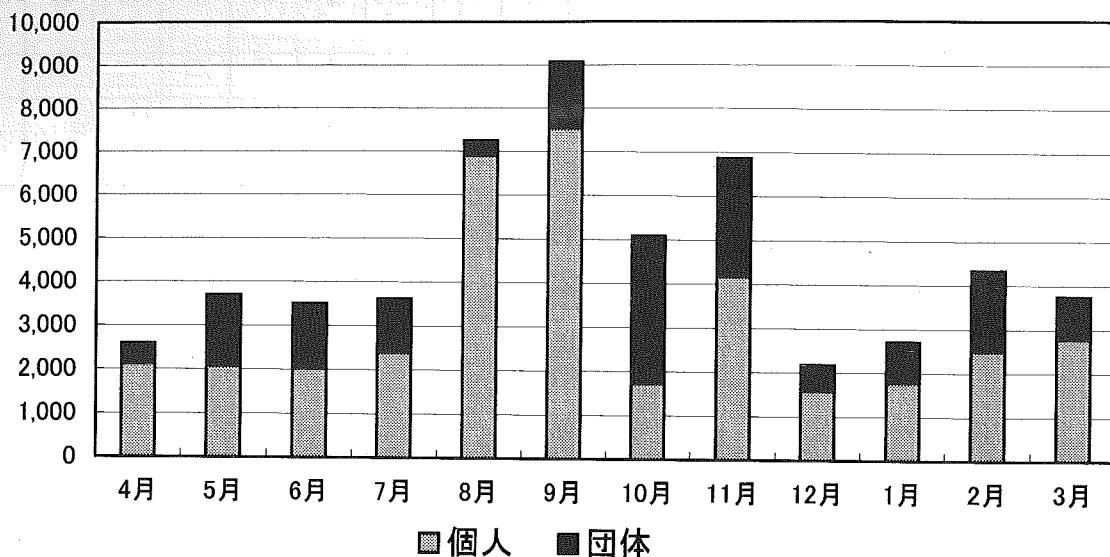
年 月	個人入館者数												団体入館者数												合計											
	大人				高大生				小中、幼児				合 計				大人				高大生				小中、幼児				合 計							
	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料				
4 1,709	47	123	7	204	29	2,036	83	2,119	94	43	35	0	0	293	129	336	465	1,803	90	158	7	204	322	2,165	419	2,584	24	107								
5 1,663	62	117	0	176	48	1,956	110	2,066	114	257	379	0	462	412	955	669	1,624	1,777	319	496	0	638	460	2,911	779	3,690	25	147								
6 1,431	88	186	0	243	67	1,860	155	2,015	102	28	978	40	6	331	1,086	399	1,485	1,533	116	1,164	40	249	398	2,946	554	3,500	25	140								
14 7 1,770	64	162	6	333	51	2,265	121	2,386	276	34	138	495	73	211	487	740	1,227	2,046	98	300	501	406	262	2,752	861	3,613	25	144								
8 3,966	257	920	2	1,681	67	6,567	326	6,893	96	31	83	0	97	41	276	72	348	4,062	288	1,003	2	1,778	108	6,843	398	7,241	21	344								
年 9 4,686	1,005	912	3	869	52	6,467	1,060	7,527	193	23	172	31	905	216	1,270	270	1,540	4,879	1,028	1,084	34	1,774	268	7,737	1,330	9,067	24	377								
10 1,312	15	244	15	111	26	1,667	56	1,723	91	259	1,654	32	236	1,090	1,981	1,381	3,362	1,403	274	1,898	47	347	1,116	3,648	1,437	5,085	20	254								
11 1,874	1,230	363	159	81	402	2,318	1,851	4,169	225	0	1,216	176	213	864	1,654	1,040	2,694	2,099	1,250	1,579	335	294	1,266	3,972	2,891	6,863	26	263								
12 1,194	84	190	0	97	13	1,481	97	1,578	151	110	0	0	159	177	310	287	597	1,345	194	190	0	256	190	1,791	384	2,175	18	120								
15 1 1,504	50	123	0	64	30	1,691	80	1,771	524	3	16	0	29	360	569	363	932	2,028	53	139	0	93	390	2,260	443	2,703	22	122								
年 2 2,022	72	283	14	72	31	2,377	117	2,494	328	413	0	0	88	1,011	416	1,424	1,840	2,350	485	283	14	160	1,042	2,793	1,541	4,334	23	188								
3 2,048	90	382	1	172	87	2,602	178	2,780	228	0	701	0	38	0	967	0	967	2,276	90	1,083	1	210	87	3,569	178	3,747	25	149								
合計 25,179	3,124	4,005	207	4,103	903	33,287	4,234	37,521	2,422	1,201	5,372	774	2,306	5,006	10,100	6,981	17,081	27,601	4,325	9,377	981	6,409	5,909	43,387	11,215	54,602	278	196								
総計 28,303	4,212	5,006	37,521	3,623	6,146	7,312	17,081	31,926	10,358	12,318	54,602																									

曜日	個人入館者数												団体入館者数												合計											
	大人				高大生				小中、幼児				合 計				大人				高大生				小中、幼児				合 計							
	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料				
月 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
火 3,242	185	696	25	519	13	4,457	223	4,680	307	203	889	527	699	1,186	1,885	1,916	3,811	3,549	388	1,585	552	1,218	1,199	6,352	2,139	8,491	43	197								
水 3,531	228	741	106	506	79	4,778	413	5,191	519	179	1,768	0	534	1,290	2,821	1,469	4,290	4,050	407	2,509	106	1,040	1,369	7,599	1,882	9,481	48	197								
木 3,470	312	647	1	654	85	4,771	398	5,169	701	386	514	8	152	916	1,357	1,310	2,677	4,171	698	1,161	9	806	1,001	6,138	1,708	7,846	47	166								
金 3,590	227	669	0	497	64	4,756	291	5,047	125	204	1,652	0	310	1,519	2,087	1,723	3,810	3,715	431	2,321	0	807	1,583	6,843	2,014	8,857	46	192								
土 5,056	395	588	13	640	362	6,284	770	7,054	372	229	395	40	472	37	1,239	306	1,545	5,428	624	983	53	1,112	399	7,523	1,076	8,599	46	186								
日 6,290	1,777	664	62	1,287	300	8,241	2,139	10,380	398	0	154	199	139	58	691	257	948	6,688	1,777	818	261	1,426	358	8,932	2,396	11,328	48	236								
合計 25,179	3,124	4,005	207	4,103	903	33,287	4,234	37,521	2,422	1,201	5,372	774	2,306	5,006	10,100	6,981	17,081	27,601	4,325	9,377	981	6,409	5,909	43,387	11,215	54,602	278	196								
総計 28,303	4,212	5,006	37,521	3,623	6,146	7,312	17,081	31,926	10,358	12,318	54,602																									

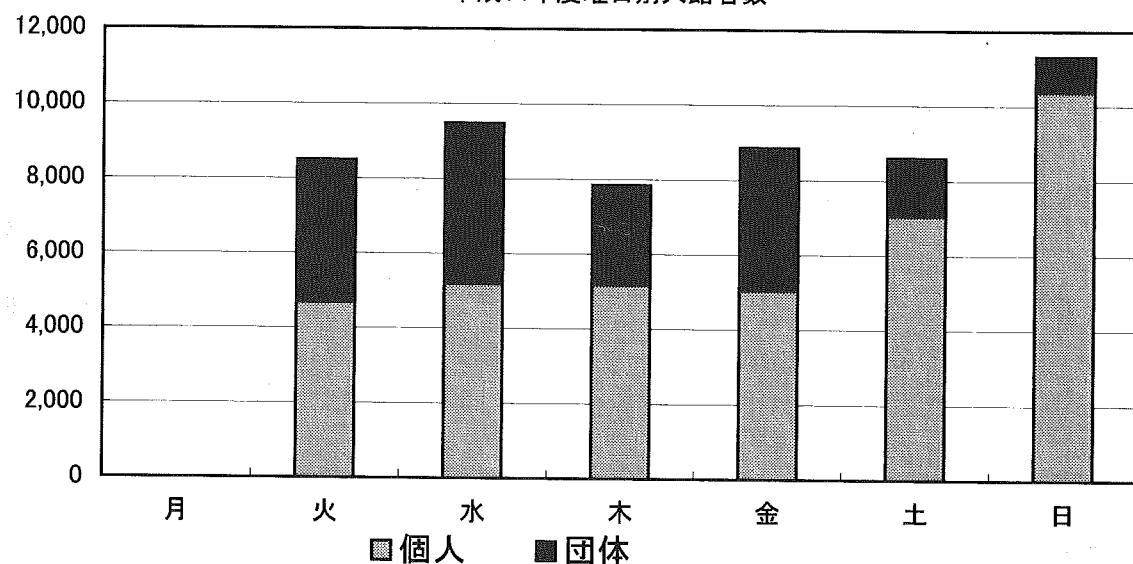
## 団体入館者数(有料)

年 月	県 内				県 外				国 外				合 計											
	大 人		高 大 生	小 中 生	大 人		高 大 生	小 中 生	大 人		高 大 生	小 中 生	团 体 人 数											
	团 体 数	人 数	团 体 数	人 数	团 体 数	人 数	团 体 数	人 数	团 体 数	人 数	团 体 数	人 数	团 体 数	人 数										
平成14年 4月					2	52	1	35	3	87	1	42			129									
5月	2	61	2	47	1	32	5	140	1	33	3	332	5	430	9	795	1	20	15	955				
6月	2	62			2	62		6	975		6	975	1	40	3	6	1	49	9	1,086				
7月	6	193		3	2	55	8	251	2	83	1	111	1	18	4	212	1	24	13	487				
8月	2	78	1	63	1	44	4	185	18	1	20	2	53	3	91				7	276				
9月	4	162	3	77	11	905	18	1,144	1	31	4	95		5	126				23	1,270				
10月	2	60	1	23		3	83		7	1,631	3	236	10	1,867	1	31		1	31	14,1,981				
11月	5	183	1	29	3	155	9	367		8	1,187	1	58	9	1,245	1	42	19	1,654					
12月	5	151			44	5	195			1	115	1	115						6	310				
平成15年 1月	1	20		1	23	2	43	10	492		2	10	494	1	12	16	4	1	32	13	569			
2月	4	165			4	165	6	163		1	88	7	251							11	416			
3月	2	37		1	32	3	69	5	191	7	701	6	12	898						15	967			
合計	35	1,172	8	242	20	1,290	63	2,704	27	1,063	38	5,087	14	1,006	79	7,156	6	187	1	43	10	7	240,149	10,100

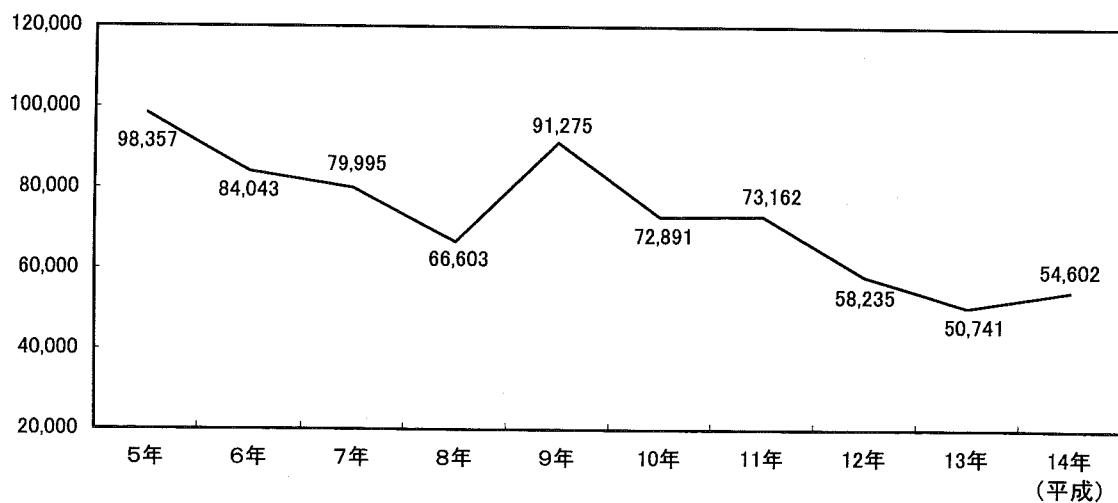
平成14年度月別入館者数



平成14年度曜日別入館者数



年間入館者数の年次推移(過去10年間)



2 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校) 84校 5,682名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
4	16	松島小学校	10	9	大里南小学校	11	22	嘉陽小学校 7名
	24	城西小学校	135名	11	与那原小学校	111名	26	伊是名小学校 30名
5	1	南風原小学校	98名	16	田場小学校	135名	26	喜屋武小学校 14名
	1	泊小学校	122名	18	漢那小学校	21名	26	古蔵小学校 32名
14	亀徳小学校	22名	18	天底小学校	30名	27	沖縄カトリック小学校 100名	
	28	糸木名・阿権・馬根小学校	26名	22	豊見城小学校	122名	12	城北小学校 30名
28	大謝名小学校	107名	24	大山小学校	180名	12	松田小学校 22名	
	30	東小学校(平良市)	126名	24	長嶺小学校	88名	13	玉城小学校 65名
6	5	久松小学校	45名	25	羽地小学校	82名	19	沖縄盲学校 2名
	7	上野小学校	46名	25	稻田小学校	18名	1	開南小学校 74名
12	泡瀬養護学校	13名	25	真喜屋小学校	22名	21	大道小学校 82名	
	13	阿嘉小学校	10名	25	嘉芸小学校	21名	22	安謝小学校 132名
20	伊平屋小学校	25名	25	和光鶴川小学校	72名	24	神原小学校 72名	
	26	粟国小学校	4名	26	和光小学校	72名	2	大名小学校 44名
27	古見小学校	4名	30	仲里小学校	32名	6	古蔵小学校 159名	
	28	ステアリー・ハイツ小学校	23名	31	百名小学校	44名	7	城西小学校 123名
28	名蔵小学校	16名	11	1	金武小学校	67名	7	横浜双葉小学校 88名
	7	アメラジアン・スクール・イン・オキナワ	28名	1	久辺小学校	40名	13	識名小学校 143名
5	壺屋小学校	39名	1	塩屋小学校	7名	18	松島小学校 150名	
	10	とよみ小学校	32名	1	城岳小学校	120名	19	曙小学校 74名
9	11	垣花小学校	52名	1	瀬喜田小学校	9名	20	城岳小学校 95名
	11	浦添小学校	17名	1	とよみ小学校	110名	21	泊小学校 134名
13	北谷小学校	99名	1	有銘小学校	13名	22	若狭小学校 95名	
	17	城北小学校	130名	5	城西小学校	148名	26	小禄南小学校 122名
19	久米島小学校	39名	7	屋我地小学校	16名	27	天妃小学校 90名	
	24	城西小学校	133名	8	奥間小学校	18名	28	壺屋小学校 31名
26	北玉小学校	82名	8	喜如嘉小学校	7名	28	城南小学校 78名	
	10	城西小学校	138名	15	佐敷小学校	78名	3	沖縄三育小学校 22名

(中学校) 20校 1,656名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名
5	9	浜中学校	18名	30	港川中学校	65名	17	レスター・ミドルスクール 23名
	14	阿蘇北中学校	127名	8	生目台中学校	32名	19	高森中学校 58名
22	鶴見橋中学校	73名	9	6	琉球大学附属中学校	20名	26	西崎中学校 8名
	22	カデナミドルスクール	30名	18	那覇中学校	51名	27	カデナミドルスクール 54名
22	鏡中学校	182名	21	興南中学校	355名	12	向陽中学校 115名	
	6	城北中学校	147名	10	市来中学校	92名	2	石嶺中学校 45名
7	10	東京大学附属中等学校	20名	11	潮平中学校	141名		

(高等学校) 42校

4,602名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	10	成女高等学校	35名	9	19	沖縄女子短大付属高等学校	21名	11	13	都立東村山西高等学校	229名
	16	川崎市立聾学校高等部	7名		26	県立真和志高等学校	21名		15	県立新座北高等学校	195名
5	14	神奈川大学附属高等学校	67名	10	26	県立球陽高等学校	32名	19	19	県立勝田工業高等学校	189名
	21	仁愛高等学校	78名		8	都立府中東高等学校	114名		20	辺土名高等学校	91名
6	31	鎌倉女子大学高等部	187名	9	埼玉県立浦和第一女子高等学校	398名	29	磐田東高等学校	146名		
	15	県立向陽高等学校	40名		22	県立南部農林高等学校	32名	12	県立小禄高等学校	80名	
6	18	都立世田谷工業高等学校	25名	22	神奈川県立平塚ろう学校	20名	2	12	首里高等学校	9名	
	25	九州産業高等学校	136名		23	岐阜県立中津高等学校	20名	3	東海学園高等学校	20名	
6	26	九州産業高等学校	145名	25	埼玉県立上尾高等学校	352名	6	保善高等学校	80名		
	27	九州産業高等学校	160名		26	大妻嵐山高等学校	226名	7	保善高等学校	111名	
7	28	九州産業高等学校	139名	11	3	明治大学付属中野高等学校	176名	12	常盤大学高等学校	147名	
	3	愛媛県立松山西高等学校	111名		9	太田西女子高等学校	139名		13	常盤大学高等学校	150名
7	24	県立普天間高等学校	7名	12	橘女子高等学校	25名	14	常盤大学高等学校	149名		
	9	滋賀県立盲学校	6名		13	日本大学明誠高等学校	244名	16	同志社国際高等学校	43名	

(大学・専門学校) 14校

378名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
5	15	日本文化経済学院	16名	9	1	追手門学院大学	28名	11	16	名桜大学	29名
	22	琉球大学	29名		3	京都精華大学	22名		24	関西学院大学	20名
7	4	弘益大学(大韓民国)	24名	15	4	甲南大学	22名				
	11	沖縄中央学園	64名		19	沖縄県立芸術大学	26名				
8	20	早稲田大学芸術学校、 日本女子大学インターナショナルテ ザインアカデミー、共立女子	20名	10	16	玉川大学	26名				
					11	沖縄国際大学	23名				
					3	国際言語文化センター	29名				

(その他) 15団体

464名

月	日	学 校 名	月	日	学 校 名	月	日	学 校 名			
4	19	こざくら幼稚園	21名	7	30	津嘉山学童クラブ	55名	9	10	城西幼稚園	67名
	5	りんご保育園	10名		8	2	レインボーモンテッソーリスクール	30名	19	城南幼稚園	50名
5	16	松川幼稚園	85名	3	3	諸聖徒保育園	13名	12	12	パンダ幼稚園	25名
	13	仲井真保育園	21名		9	はえばる幼稚園	13名		19	沖縄女子短大付属報恩幼稚園	26名
6	19	浜川幼児教育園	14名	29	仲井真保育園	13名	3	6	当蔵保育所	21名	

### III 調査研究等の活動

#### 1 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という四つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに相補性をもって存在するものであるが、調査研究活動は、その中でもっとも基礎となるものである。

当館における調査研究活動は、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を対象として取り組む共同研究と、個々の学芸員が各自の専門分野について調査研究を進める個別研究がある。

共同研究としては、各離島における自然・歴史・民俗・考古・美術工芸の各分野の基礎資料掘り起こしと、収集を目的とした総合調査を実施しており、これまでに久米島（平成5年度・6年度）を皮切りに、波照間島（平成8年度・9年度）、西表島（平成10年度～12年度）と実施し、それぞれ調査報告書を刊行している。平成13年度からは小浜島について調査を実施しており、平成15年度は報告書を刊行する予定である。なお、平成16年度以降は八重山圏の未調査地域を検討している。

各学芸員については、それぞれの専門分野別に自主的なテーマ設定のもと進めている研究や、外部からの依頼を受けて実施している調査研究など、多様なあり方で研究が行われている。それぞれの研究成果については、平成14年度に刊行した『沖縄県立博物館紀要』第29号をはじめとして、各学芸員が所属している学会の会誌や研究機関誌等で発表されている。また、各機関から委嘱、依頼を受けた委員会や講演会等でも、それぞれ関連する調査に基づいた発表がなされている。

以下、平成13年度に当館及び学芸員が実施した調査・研究活動の状況を報告する。

#### 小浜島総合調査（担当：田中聰）

##### 1.博物館総合調査事業の趣旨

沖縄県は多くの島々から成り立ち、島ごとに独自の自然やそれを背景としたくらしがある。

これまで県内の離島については、生物相、遺跡の分布、民俗・集落や伝統行事等については報告が散見される。しかし、島々の自然・文化・社会を深く理解するためには、基礎的なデータは十分とはいえない。

近年、県内においても森林伐採・道路建設・干潟の埋め立てなど各種開発事業が活発に進められており、自然環境は大きく変貌してきている。さらに、地域住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面も変わりつつある。このままでは、島々の自然・文化・社会等に関する貴重な資料が失われてしまうことは想像に難くない。

そこで、本事業は県内離島の自然・文化・社会について調査・研究し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして、島々の実態を多くの県民に正しく理解させることを目的としている。正しい知識の共有は、搅乱に対して脆弱な島の自然の保全や貴重な文化的資料の保存に対する理解を深め、よりよい形での各地域の発展につながるものと考えられる。

総合調査の期間は対象となる島の大きさや調査内容などに応じて2～3年であるが、小浜島総合調査は2001年度から2003年度までの3年計画で実施している。

今年度は2年目であり、当館の館長、教育普及課長のほか、学芸員を含めて総勢10人の体制で実施した。

##### 2.小浜島総合調査の選定理由

小浜島は八重山郡竹富町に属しており、石垣島と西表島の間に位置している。面積は約8.14km<sup>2</sup>で、もっとも高い大岳の標高は99mである。

八重山郡の島々には沖縄・宮古諸島とは異なる自然や文化がみられることが知られているが、

島ごとの実態は十分明らかにされていない。したがって、今回的小浜島総合調査は同島内各地域に現存する貴重な資料の調査・収集等を目的に選定された。

### 3.総合調査組織

本調査組織は沖縄県立博物館の館長(考古)、教育普及課長(歴史)のほか、学芸員(自然・考古・歴史・民俗・美術工芸の各担当者)によって構成されている。

### 4.調査方法

本調査は、自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の5分野で実施しており、各分野の調査対象や調査地域等は異なっている。したがって、現地調査は分野別に具体的な調査対象・方法を各担当者で検討した上で個別に実施している。

### 5.調査員

平成14年度の調査員は当博物館の職員で構成されており、下記の通りである。

【自 然】	宮 城 勉 (県立博物館指導主事) 嵩 原 建 二 ( ) 田 中 聰 ( )
【考 古】	當 真 嗣 一 (県立博物館館長) 仲 座 久 宜 (県立博物館専門員)
【歴 史】	前 田 真 之 (県立博物館教育普及課長)
【民 俗】	桃 原 茂 夫 (県立博物館主任指導主事) 玉 城 善 哲 (県立博物館指導主事)
【美術工芸】	與 那 嶺 一 子 (県立博物館主任学芸員) 瑞 慶 山 昇 (県立博物館指導主事)

### 6.調査の成果

- (1) 調査の成果は2003(平成15)年度末に報告書を刊行する。
- (2) これまでに実施した島を含めて、八重山諸島のいくつかの島嶼の総合調査の成果にもとづいた特別展を数年後に開催する予定である。

\* 小浜島総合調査(2年目)の調査実績は次のとおりである。

調査員氏名	分 野	調査実施期間
嵩原 建二 "	自 然	平成14年5月22日～5月24日 平成15年3月6日～3月8日
田 中 聰	自 然	平成14年9月8日～9月10日
宮 城 勉	自 然	平成15年2月19日～2月21日
前 田 真 之	歴 史	平成15年2月26日～2月28日
當 真 嗣 一	考 古	平成15年2月27日～3月1日
仲 座 久 宜	考 古	平成15年2月27日～3月1日
桃 原 茂 夫	民 俗	平成15年3月4日～3月6日
玉 城 善 哲	民 俗	平成15年3月4日～3月6日
瑞 慶 山 昇	美術工芸	平成15年3月6日～3月8日
與 那 嶺 一 子	美術工芸	平成15年3月15日～3月17日

## 2 調査研究

津波古 聰（主幹兼学芸課長）

○那覇市文化財調査審議委員会

期 間：平成13年12月～平成15年12月

調査地：那覇市

依頼機関：那覇市教育委員会

○尚家関係資料総合調査委員会

期 間：平成12年4月～平成14年3月

依頼機関：那覇市歴史資料室

與那嶺 一子（主任学芸員）

○平成15年度特別展準備のための資料調査

期 間：平成14年7月5日～8日

調査地：山形県米沢市

○本部町に伝わる縫衣裳の調査

期 間：平成14年8月14日

調査地：本部町嘉津宇

依頼機関：本部町

○知花花織保存伝承事業に係る調査

期 間：平成15年2月19日～21日

調査地：東京都・静岡市

依頼機関：知花花織研究会

○苧麻糸手續み技術の調査

期 間：平成15年2月25日～26日

調査地：下地町、城辺町、平良市

依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課

○小浜島総合調査

期 間：平成15年3月15日～17日

調査地：竹富町小浜島

園原 謙（主任）

○平成14年知花花織保存伝承事業

「映像記録等作成委員会」委員

期 間：平成14年12月16日～

平成15年3月31日

依頼機関：知花花織保存会

○平成14年度宮古上布

苧麻（ブー）うみ伝統事業検討委員会

期 間：平成15年2月14日～

3月31日

調査地：宮古

依頼機関：平良市

桃原 茂夫（主任指導主事）

○沖縄の綱引き習俗調査

期 間：①平成15年1月31日～

2月2日

②平成15年3月18日～

3月20日

調査地：①竹富町黒島

②与那国

依頼機関：沖縄県教育委員会（文化課）

嵩原 建二（指導主事）

○名護市動植物総合調査委員

期 間：平成14年4月1日～

平成15年3月31日

調査地：名護市一円

依頼機関：名護市教育委員会

○ノグチゲラ調査検討専門部会

期 間：平成14年4月1日～

平成15年3月31日

依頼機関：（財）沖縄建設弘済会

（北部ダム事務所委託）

○傷病野生鳥獣救護検討委員会

期 間：平成15年3月13日～

平成15年3月31日

依頼機関：沖縄県文化環境部自然保護課

○環境省委託ダイトウオオコウモリ

生息地調査

期 間：平成14年10月30日～

11月3日

調査地：北大東島

依頼機関：（財）自然環境研究センター

宮城 勉（指導主事）

○名護市動植物総合調査

期 間：平成14年4月1日～

平成15年3月31日

調査地：名護一円

依頼機関：名護市教育委員会

調査内容：地質調査

○小浜島総合調査

期 間：平成15年2月19日～21日

調査地：竹富町小浜島及び石垣島

調査内容：地質野外調査

**前田 真之** (教育普及課長)

○小浜島総合調査

期 間：平成15年2月26日～28日

調査地：小浜島

依頼機関：沖縄県立博物館

**田中 聰** (指導主事)

○小浜島総合調査

期 間：平成14年9月8日～10日

依頼機関：県立博物館

### 3 講演等

**與那嶺 一子** (主任学芸員)

○パネルディスカッション

「グローバリズムと土着性」

期 日：平成14年11月3日

場 所：沖縄県立芸術大学附属研究所

AV講義室

依頼機関：大阪芸術大学

○「沖縄の染色と織物について」

期 日：平成15年3月7日（金）

場 所：南西観光ホテル

バンケットルーム

依頼機関：玉川大学継続学習センター

**園原 謙** (主任)

○市町村新採用職員研修

「沖縄県の歴史と文化」

期 日：平成14年4月22日（第58回）

平成14年6月10日（第59回）

平成14年8月26日（第60回）

場 所：自治研修所

依頼機関：自治研修所

○平成14年度石嶺公民館成人講座

「文化財からみる王国の歴史と文化」

期 日：平成14年6月26日

場 所：那覇市石嶺公民館

依頼機関：那覇市石嶺公民館

○マリンスポーツインストラクター講座

「文化財にみる沖縄の歴史と文化」

期 日：平成14年10月24日

場 所：沖縄県女性総合センター「ているる」

依頼機関：(財)マリンレジャー

セイフティービューロー

○第4期沖縄市平和ガイド養成講座

「文化財にみる沖縄の歴史と文化」

期 日：平成14年10月22日・29日

場 所：沖縄市役所研修室

依頼機関：沖縄市平和・男女共同課

**嵩原 建二** (指導主事)

○愛鳥週間に伴う講演会

期 日：平成14年5月13日

場 所：喜瀬武原小中学校

依頼機関：沖縄県文化環境部自然保護課

○移動博物館に伴う自然観察会講師

期 日：平成14年6月22日

場 所：多良間島

依頼機関：多良間島教育委員会

○総合学習の展開に伴う職員研修会講師

期 日：平成14年8月13日

場 所：具志川小学校

依頼機関：具志川小学校

○総合学習の展開に伴う自然体験

観察会講師

期 日：平成14年9月11日

場 所：末吉公園

依頼機関：那覇市城北小学校

○児童生徒科学作品展審査

期 日：平成14年10月11日

場 所：首里公民館

依頼機関：沖縄県理科教育研究会

○野外観察会講師

期 日：平成14年11月23日

場 所：大山

依頼機関：宜野湾市立博物館

○野鳥講演・野外観察会講師

期 日：平成15年1月27日・29日

場 所：豊見城高校、漫湖干潟

**宮城 勉** (指導主事)

○親子星空教室「秋の星を見よう」

期 間：2002年10月11日

依頼機関：浦城小学校

**桃原 茂夫**（主任指導主事）  
○史跡巡り（糸数グスク、座喜味グスク、恩納村の歴史の道）  
期　　日：11月23日（土）  
依頼機関：向陽高校 P T A

○史跡探訪（アガリウマーライの拝所）  
期　　日：11月19日（火）  
依頼機関：浦添市てだこ学園大学院

○謝花昇顯彰委員会  
期　　日：3月25日（火）  
依頼機関：東風平町教育委員会

**前田 真之**（教育普及課長）  
○「ボランティアの役割とガイドの実践」  
期　　日：平成15年3月15日  
依頼機関：那覇市立壺屋焼物博物館

**田中 聰**（指導主事）  
○総合学習の展開に伴う自然体験観察会  
期　　日：平成14年8月29日  
場　　所：那覇市末吉公園  
依頼機関：那覇市立城北小学校

○県科学賞作品展示会（審査員）  
期　　日：平成13年10月11日  
場　　所：那覇市首里公民館  
依頼機関：沖縄県理科教育協会

○日本爬虫両棲類学会第41回大会  
期　　日：平成14年10月5・6日  
場　　所：北海道東海大学（札幌）  
講演表題：「イボイモリの繁殖移動」

○博物館ボランティア養成講座  
「私の薦めるスポットガイド  
～自然史展示室～」

#### 4 著作論文等

**與那嶺 一子**（主任学芸員）  
○「先島の染織」「本島の染織」（共著）『清ら布 沖縄の風を織る光を染める』  
日本放送出版協会 2002年8月  
○「国王装束：唐御衣裳・黄組物御帶・裳」「尚家継承紅型と沖縄の紅型」『尚家関係資料総合調査事業報告書二 美術工芸編』那覇市 2003年3月

**園原 謙**（主任）  
○「大正時代における沖縄県の文化財指定関連の行政文書について」  
『沖縄県立博物館紀要第29号』 2003年3月

**宮城 勉**（指導主事）  
○「名護市産の新生界化石について」『沖縄県博物館紀要 第29号』 2003年3月

**桃原 茂夫**（主任指導主事）  
○「ふるさと歳時記」 週刊ほーむぶらざ（株）タイムス住宅新聞社  
「盆行事」（第799号）、「西表島の節祭」（第804号）、「菊酒」（第809号）

**田中 聰**（指導主事）  
○「サキシマハブ幼蛇によるイシガキトカゲの捕食：直接観察」『Akamata No. 16』  
2002年12月  
○「先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について」（共著）  
『沖縄県立博物館紀要 第29号』 2003年3月

嵩原 建二（指導主事）

- 『沖縄県の野鳥』（共著）新報出版 2002年5月
- 「読谷村のトンボ相」（共著）『読谷村歴史民俗資料館紀要 第27号』  
読谷村立歴史民俗資料館 2003年3月
- 「折居彪二郎資料『大隈・琉球列島採集日誌』（1921）について」（共著）  
沖縄大学地域研究所所報別冊 2003年3月 沖縄大学地域研究所
- 「先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について」（共著）  
『沖縄県立博物館紀要 第29号』 2003年3月
- 「大東諸島産鳥類目録」（共著）『沖縄県立博物館紀要 29号』 2003年3月
- 「名護市の鳥類」『名護市動植物総合調査報告書』名護市教育委員会 2003年3月

## 5 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示、及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」（博物館法 第4条4）こととしており、学問の専門性が要求されている。そのため学芸員一人ひとりがこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員は適宜研修を受けている。

平成14年度は、文部科学省が主催する「博物館職員講習会」に参加した。この研修は2年連続で、博物館職員としての必要な専門的な内容を含む研修である。

### （1）平成14年度博物館職員講習（田中 聰）

「博物館職員講習」は、博物館等に勤務する職員を対象に学芸員資格の取得を目的として実施されている。期間は2年間にまたがり、1年目にあたる平成14年度は5月20日～6月12日に社会教育実践研究センター（東京上野）を主会場に、「博物館学」に含まれる講義および現地研修を受講した。今回の研修では、博物館概論・博物館経営論・博物館情報論・博物館資料論についての講義・現地研修をとおして、博物館事業に関わる幅広い知識を体系的に得ることができ、取り組むべき課題が多いことを認識した。研修内容は以下のとおりである。

- 5月20日（月）開講式・「行政説明：生涯学習振興施策の動向」・研究協議
- 5月21日（火）「博物館と博物館学」・「地域博物館論」
- 5月22日（水）「博物館倫理」・「博物館関係法規」
- 5月23日（木）「自然系博物館の現状」・「人文系博物館の現状」
- 5月24日（金）「我が国の博物館史」・「海外の博物館史」
- 5月27日（月）「博物館と地域社会」・「博物館とボランティア」
- 5月28日（火）「博物館概論テスト」・「博物館の行財政制度」
- 5月29日（水）「博物館における教育普及活動の意義」・「博物館の職員及び施設・設備」
- 5月30日（木）「ミュージアム・マネジメント」・「事例研究：博物館における教育普及活動の方法」
- 5月31日（金）「博物館における情報の意義」・「事例研究：博物館における情報提供と活用の方法・情報提供の実際」
- 6月3日（月）「現地研修：情報提供の方法」（於 株式会社玄翁堂・株式会社ココロ）
- 6月4日（火）「博物館における情報機器」・「博物館経営論・博物館情報論テスト」
- 6月5日（水）「現地研修：博物館資料の収集」
- 6月6日（木）「現地研修：博物館資料の展示・自然系展示の実際」（於 東海大学海洋博物館）
- 6月7日（金）「現地研修：博物館資料の展示・人文系展示の実際」（於 横浜市歴史博物館）
- 6月10日（月）「現地研修：資料の保存・整理保管」（国立科学博物館新宿分館）
- 6月11日（火）「博物館資料に関する調査研究活動の意義と方法：資料に関する研究」・  
「博物館資料に関する調査研究活動の意義と方法：保管・展示・教育に関する研究」

## IV 展示活動

### 1 展示活動の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集・保管、資料の展示、教育普及活動という4つの大きな柱によって構成されている。本館の展示活動は主として学芸課がその任にあたり、常設展を基本に特別展を年に1回から2回、企画展を1回から2回実施している。また教育普及課が主体となって、移動博物館を離島地域を対象に実施している。

特別展と企画展の実施にあたっては、専用の企画展示室が狭隘であるため、展示規模に合わせて第1室（考古・歴史展示室）や第3室（美術工芸展示室）を利用している。そのため、特別展開催期間中は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展が観覧できないことが、当館の大きな課題となっている。

平成14年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマとした常設展示を中心に、特別展として「港川人展～元祖ウチナーンチ～」、企画展として「平成13年度新収蔵品展」、「沖縄ナースものがたり～看護学校の青春群像」を開催した。また、11月3日（文化の日）を含むように「沖縄の文化財展」を開催し文化の日のみ入館料を免除した。なお、5月18日（国際博物館の日）の前後に、ミニパネル展「博物館を知ろう」と題したパネル展も開催した。

以下、平成14年度の展示活動について紹介する。

### 2 常設展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候のもとにある沖縄県は、東西南北の文化が交差する特色ある地域として、我が国の中でも個性豊かな文化を造りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ、日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って、海洋国家として興隆したという独特の経緯を有している。

本館は、沖縄県の特色ある歴史と文化に関する資料を収集して、整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。展示室は、1階の歴史展示室と自然史展示室、2階の企画展示室と美術工芸、さらに中3階の民俗展示室がある。常設展示は「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマにして、展示室を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されている。

まず館のロビーに入ると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかつた首里城正殿大龍柱吽形頭部、「徳高」や「徳馨」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。それから動線は歴史展示室へとつながる。歴史展示室は琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。例えば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる先史時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異にする宮古・八重山先史時代の姿などを紹介する。また12世紀から13世紀になると、按司と称する在地の小領主が出現しグスク時代が始まるが、各グスクから出土した遺物が展示されている。

次のコーナーでは、琉球王国が誕生する様相が紹介されている。15世紀前半には沖縄

本島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の進行をうけその支配下にはいり、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでのユニークな沖縄歴史の様相が展開されている。

自然史展示室は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれる。アンモナイトやハロビア、あるいはリュウキュウジカやリュウキュウムカシキヨンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。入り口から入って、右まわりに海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林にすむ生きもの、源流の生きものをテーマにしたジオラマが続いている。また、沖縄のハブについても展示紹介してある。特に大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島に生息する国・県指定の天然記念物については、中央部に特設コーナーを設けて展示してある。

自然史展示室を出ると2階に至るスロープがあり、スロープの側壁には戦前から戦後にかけ撮影された貴重な沖縄の風景写真パネルが展示されていて、写真を見ながら企画展示室に導かれる。

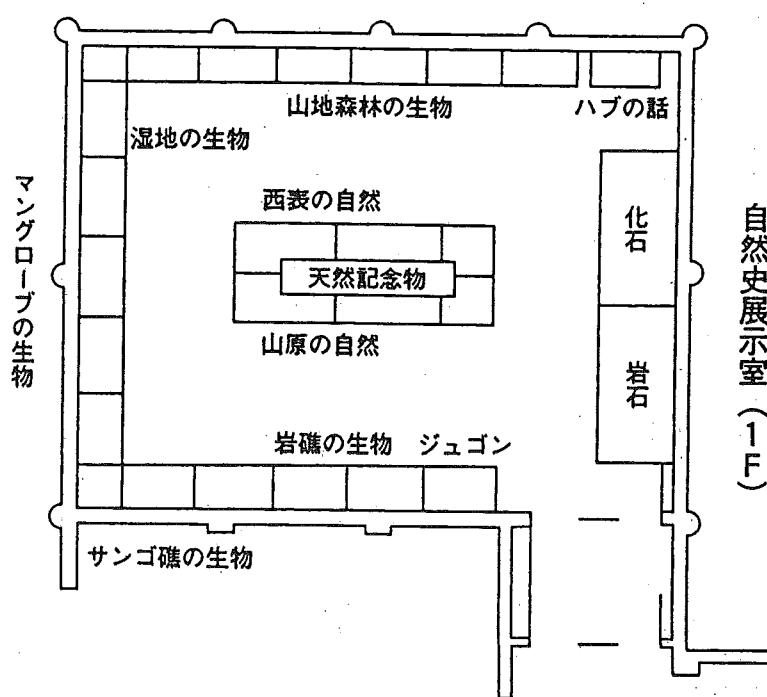
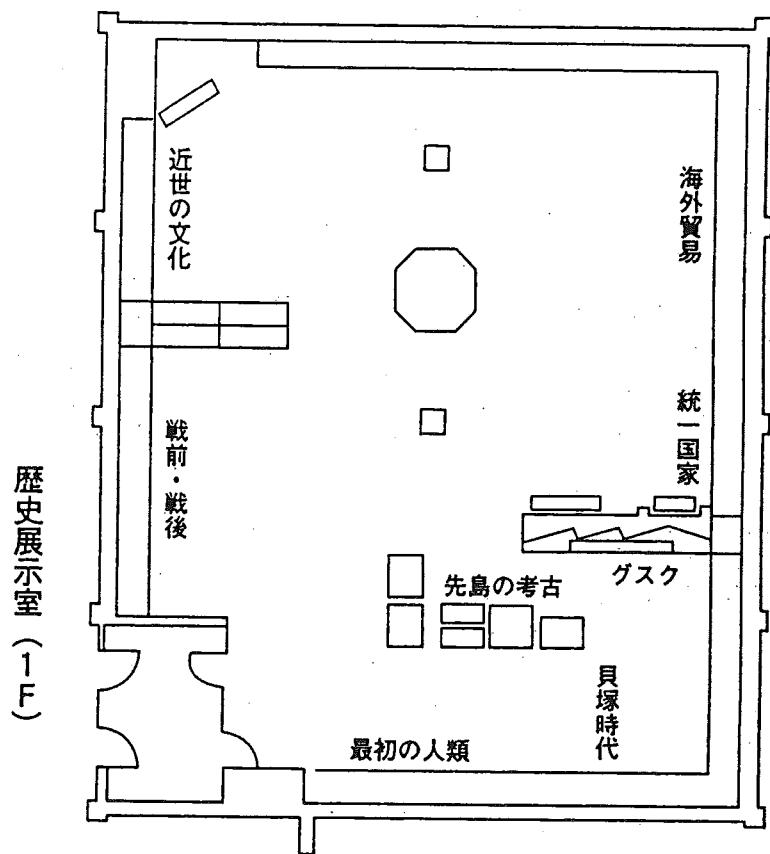
2階には企画展示室、美術工芸展示室、民俗展示室がある。企画展示室は、特別展や企画展の開催がない期間は、「大嶺薰コレクション」が展示されているが、その一角を利用して各学芸員の専門性をいかしたミニコーナを設けてある。

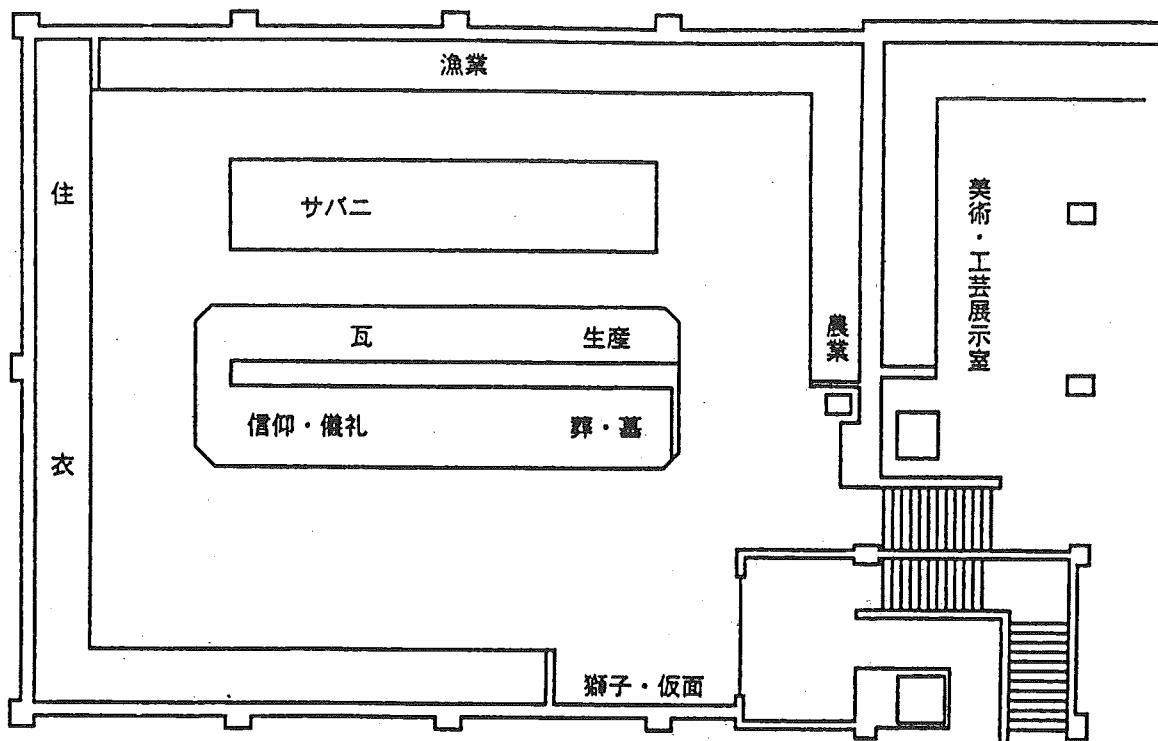
美術工芸展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交流を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

民俗展示室では、琉球列島の民俗資料を、農業、漁業、衣食住、芸能などのテーマで整理・分類して展示してある。庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知ることができる。とりわけ、他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などの展示は、この展示室の特徴の一つになっている。

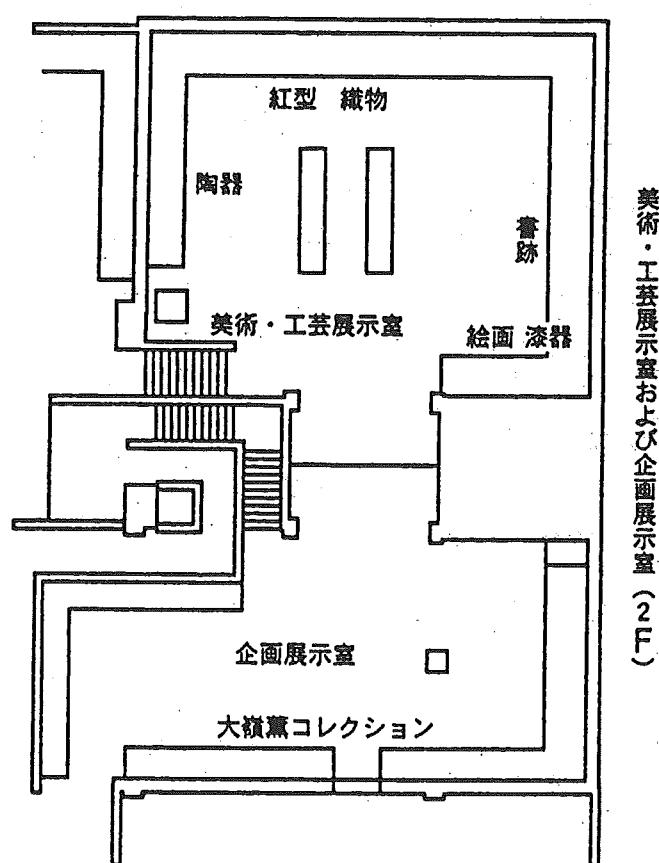
当館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷跡であり中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特な工法で築かれた石牆は、前面の龍潭や首里城の景観と調和して古都のたたずまいをしのばせる歴史的景観を呈している。また野外展示にもなっている前庭には、旧円覚寺鐘（重要文化財）や沖永良部から移築された高倉をはじめ、石灯籠や石敢當とともに粟国島のトーリ（石製のタンク）、石獅子、島常賀作の獅子頭、岩石標本などが展示されている。

## 各展示室展示略図





民俗展示室（2F）



### 3 特別展

特別展 「港川人展」～元祖ウチナーンチュ～ (担当：宮城勉・仲座久宜)  
会期 平成14年8月20日(火)～9月29日(日)  
会場 沖縄県立博物館(歴史展示室・企画展示室・自然展示室・ロビー)  
関連催事：特別講演会、シンポジウム、鑑定会(県立博物館講堂)  
野外巡査(沖縄本島南部地域遺跡)  
予算額 9,499千円

#### 【趣旨】

数々の人類化石が発掘された沖縄は、日本人研究の重要な位置を占め、世界的に注目される標本が発見されている。山下町第一洞穴で発見された約32,000年前の山下洞人は最古の化石人骨である。1970年には、沖縄本島南部の具志頭村の港川遺跡から約18,000年前の化石人骨が発見された。

港川人は顔の特徴を知ることのできる「最古の日本人」でもあり、現在のところその仲間が北上して縄文人の祖先になったという説が有力である。港川人は、ウチナーンチュのルーツを解く鍵というだけではなく、まさに日本人研究の出発点でもある。

この展示会では、「港川人」についてこれまでの研究の成果を一般に公開すると共に、青少年に故郷沖縄で発掘された貴重な化石人骨を実際に観察し、人類の歴史と日本人、ひいてはウチナーンチュのルーツについて学ぶ機会とした。

#### 【開催形式】

主催：沖縄県立博物館

共催：NHK沖縄放送局、琉球新報社

協力：東京大学、独立行政法人国立科学博物館

後援：具志頭村教育委員会、日本人類学会、沖縄考古学会、沖縄地学会、沖縄県高等学校理科教育研究協議会、沖縄県理科教育協会、沖縄県高等学校地学教育研究会、高校地歴公民研究会、中学校社会科教育研究会、小学校社会科教育研究会、沖縄県立学校校長会、沖縄県中学校校長会、沖縄県小学校校長会、沖縄県PTA連合会、沖縄県高等学校PTA連合会、沖縄テレビ、琉球朝日放送、琉球放送、エフエム沖縄、沖縄ケーブルネットワーク、ラジオ沖縄

期間中約1万5千人の入館者があり、大盛況のうちに終了した。沖縄における最初の頃の人類として、学校現場でも教材に用いられるほどの貴重さと、郷土で発掘され久しぶりの公開とあって、多くの児童生徒、親子連れが目立つ展示会となった。

#### 【展示内容】

##### ①プロローグ展示

港川フィッシュヤー遺跡の大型模型を取り口に据え、琉球列島の位置、館長挨拶とつないだ。

##### ②港川人ってどんな人

骨しか見つかっていない港川人。その骨の状態から、港川人は他の人類と比べてどう違うのか、骨からわかる港川人の特徴をとらえた。1号全身骨格、2号頭骨、3号頭骨、下顎Aなど、実物資料および1～4号人骨全骨格レプリカ資料を展示、また現代人骨格標本模型も展示し、比較することにより港川人の特徴をとらえた。

#### ③港川人の発見

港川人は大山氏の努力により発見される。化石研究・収集家としても知られる大山さんの素顔を紹介した。ここでは大山氏の社長室を再現し、大山氏のコレクションや業績、港川人発見に至る過程を紹介した。また、四次にわたる沖縄洪積世人類調査において収集された港川フィッシャー遺跡から産出した他の動物化石をそろえ、人類化石以外においての港川フィッシャー遺跡の重要性を検証した。さらに前年度まで3年にわたって行われてきた、港川フィッシャー遺跡の再調査の結果も同時に紹介した。

#### ④港川人の来た道

骨に残された証拠から、港川人のたどってきた道を検証した。ここではほぼ同じ時代の人骨化石と思われる中国及びジャワ島産の人骨化石を港川人と比較し、港川人がどこからきたのかを考察した。

#### ⑤港川人がいた世界

2階企画展示室において、沖縄県各地で発見されている港川人と同時代の動物化石を集め、剥製標本および骨格標本と化石の比較や、現在とおよそ2万年前の沖縄の動物層を比較し、港川人がいた頃の環境を考えた。

#### ⑥骨から見た沖縄人のルーツ

私たち沖縄人・日本人の歴史・進化を、貝塚時代、グスク時代、近代などの頭骨を展示比較し、骨の形態学的な立場から沖縄にいる人々のルーツをたどった。

#### ⑦旧石器を使っていた頃

人類は道具を使うことでより発展してきた。その中で、旧石器時代と呼ばれるころの世界を検証した。特に徳之島において発見されている旧石器を展示し、沖縄県においての発見の可能性を示唆した。

#### ⑧旧石器時代以降の琉球人

旧石器時代以降の沖縄に見られる遺跡から、沖縄にいた人々がどう生活してきたか、どのような発展をしてきたかを考えた。特に考古学的立場から土器や装飾品、実用品を展示し、時代の流れをとらえた。

### 【関連催事】

#### ①シンポジウム「港川人の世界」

場所：博物館講堂

日時：8月24日（土）午後2時～午後4時30分

安里嗣惇氏（沖縄県埋蔵文化財センター所長）をコーディネーターに、馬場悠男氏（国立科学博物館人類研究部長）、野原朝秀氏（琉球大学名誉教授）、土肥直美氏（琉球大学医学部助教授）、知念勇氏（恩納村立博物館館長）、大山盛弘氏（OK運輸社長）をパネラーに迎え、最新の港川人に関する情報や、発見のいきさつ、研究史などの発表があった。馬場氏は人類学的立場と、第二次調査隊のメンバーとして港川人の発掘に参加した立場か

ら、また土肥氏は形質人類学的立場から最新の見地を発表された。また野原氏と大山氏も発見者の故大山盛保氏の思い出話や、当時の状況、動物化石の産出状況やその学術的意義を発表した。知念氏は発見当時琉球政府内にあって行政的な立場からの関わりを中心に発表した。会場からも質問が多く、県民の関心を伺えるシンポジウムで281名の来場があった。

②洞穴観察会（野外巡検） 定員35名 申込制

場所：那覇市山下町洞穴、具志頭村港川遺跡、知念村ジープ洞

日時：8月25日（日）、9月8日（日）、9月14日（土） 午前9時～午後1時

知念幸子氏（球陽高等学校教諭）を講師として、人骨が出土した洞穴である那覇市の山下町第二洞、具志頭村の港川フィッシャー遺跡の見学、知念村のジープ洞で実際に洞穴の中に入り化石の産出状況を観察、採集した。参加者は、小中学生8名、一般は2回で59名の参加があった。

③化石・岩石鑑定会 児童生徒向け。化石・岩石の鑑定会

場所：博物館講堂

日時：8月28日（水）29日（木） 午後2時～午後4時

夏休みなどで採集した化石や岩石を鑑定し、自由研究等に利用できる企画とした。保護者を含め、63名12件の鑑定依頼があった。神谷厚昭氏（真和志高等学校教諭）と宮城が鑑定した。

④特別展講演会「港川人がいた頃の沖縄は」

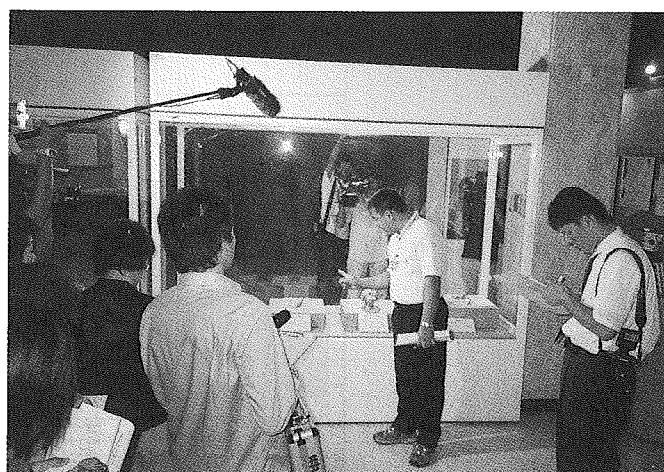
場所：博物館講堂

日時：9月21日（土） 午後2時～午後4時

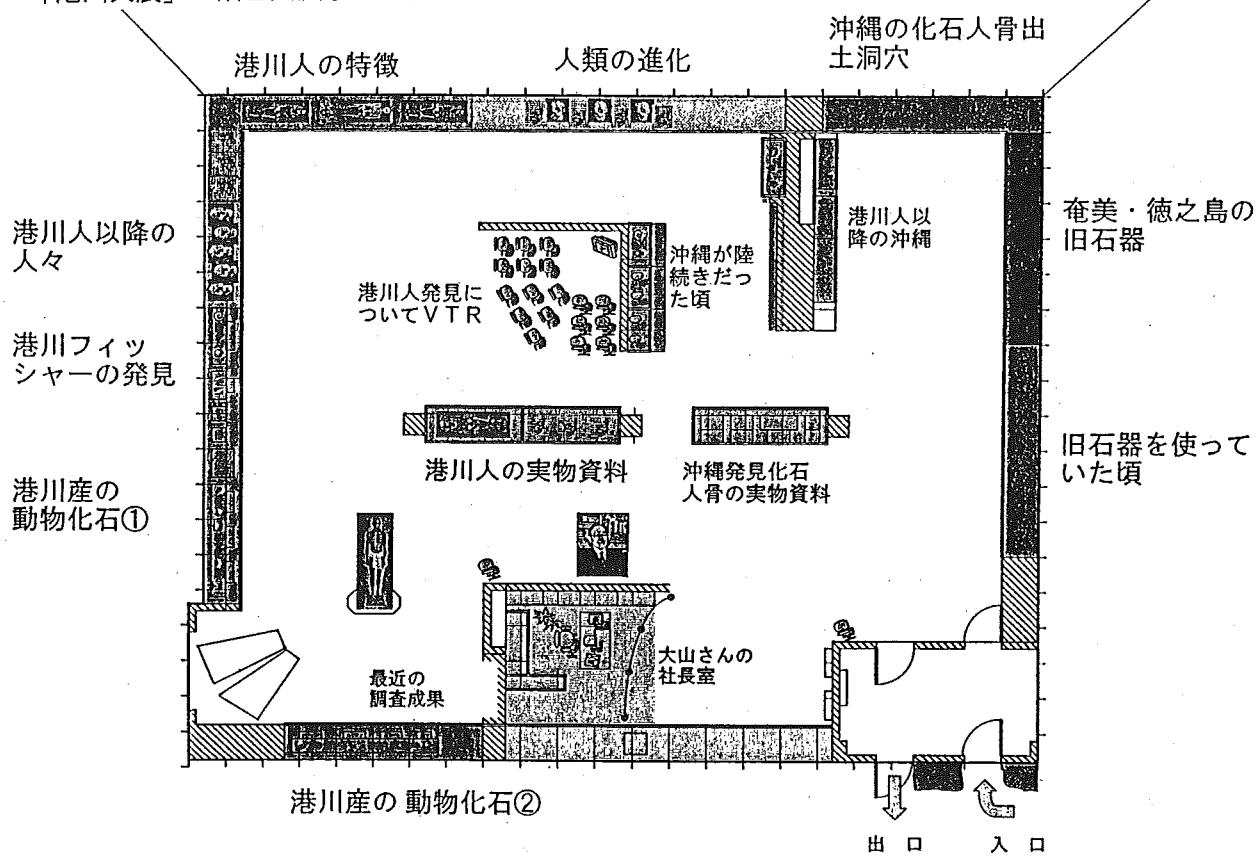
講師に群馬県立自然史博物館の長谷川善和館長を迎え、古脊椎動物担当として港川人発見当初から関わってきたエピソードや発見された古生物群の特徴を中心に講演を行った。特に現在と港川人がいた当時の動物層を比較し、現在の動物相ひいては琉球列島の環境悪化の警告を発した内容であった。関心の高さを示すように、212名の来場があった。

【入館料金】

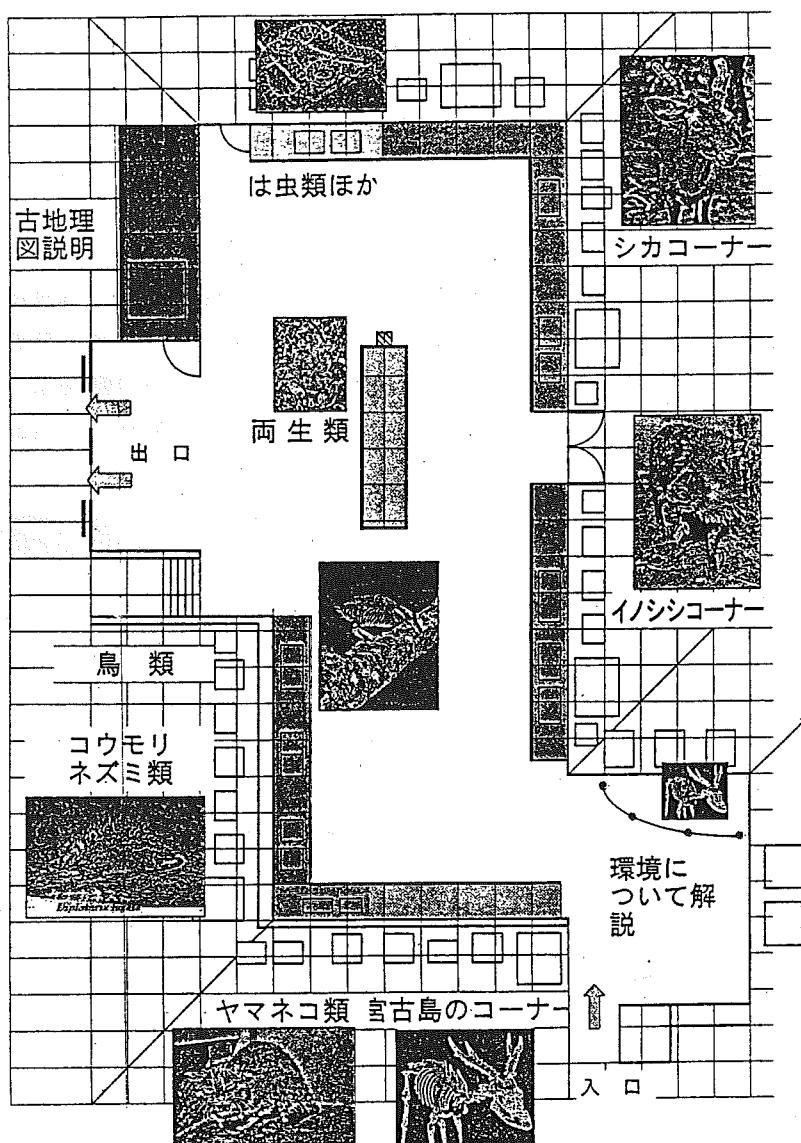
一般	500円
大学生及び高校生	200円
中学生及び小学生	100円
団体（20人以上）	各2割引



「港川人展」1階歴史展示室展示構成



「港川人展」  
2階企画展示室展示構成



## 4 企画展

企画展 平成13年度「新収蔵品展」 (担当:桃原茂夫、田中聰)

会期:平成14年7月23日(火)~8月11日(日)

場所:企画展示室

### 【開催趣旨】

企画展「新収蔵品展」は、前年度に寄贈・収集・購入・移管された諸資料を一堂に集め、広く一般公開するとともに、今後の展示や研究等に活用することを目的にして実施するものである。

### 【事業内容】

平成13年度に寄贈・収集・購入された諸資料を、自然、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野に分類して、博物館2階の企画展示室で、展示・公開した。

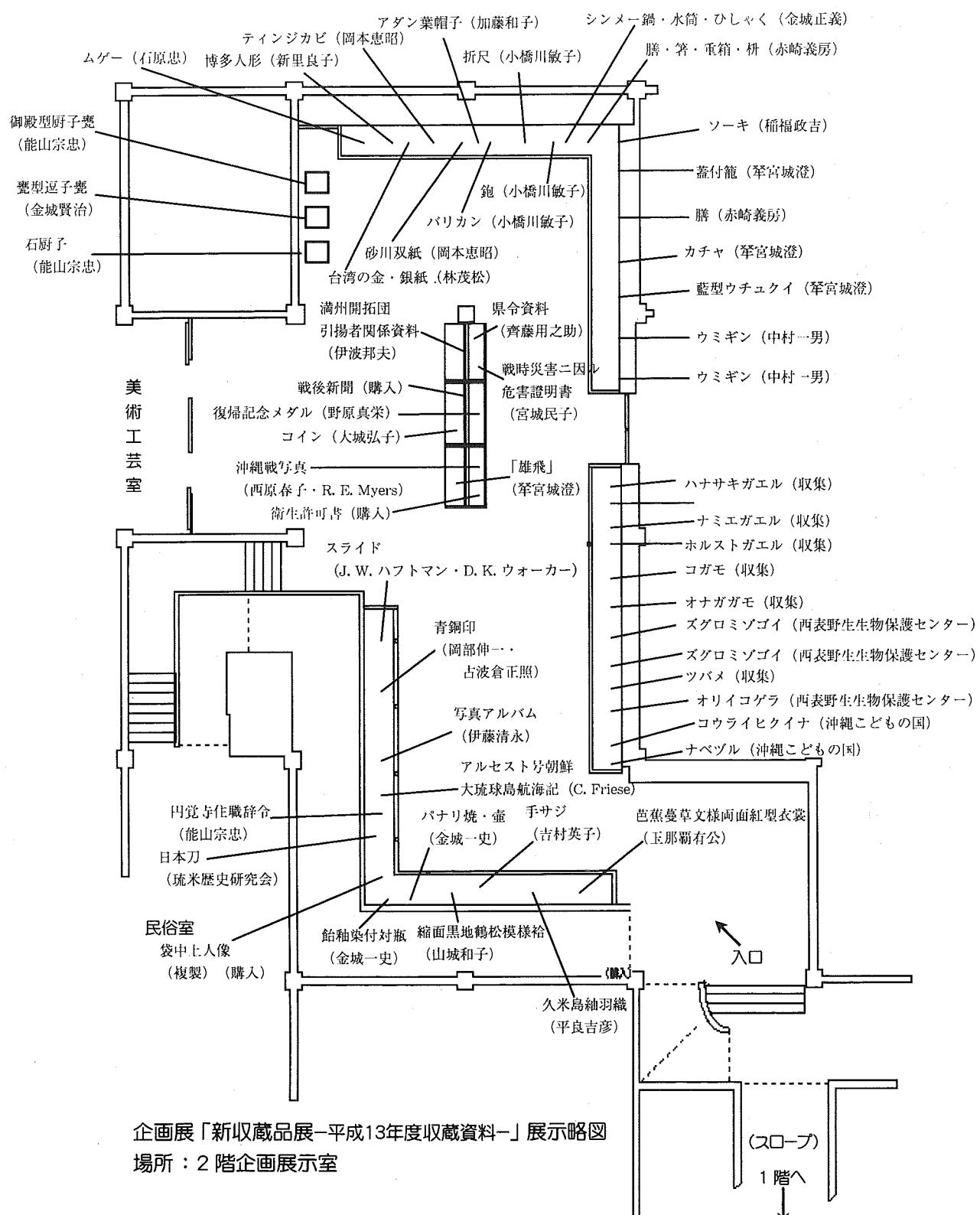
開会式新収蔵品展の初日には、寄贈者の代表者に感謝状を贈呈し、テープカットにも参加していただいた。その他の寄贈者に対しては感謝状を郵送した。

### 【展示内容】

平成13年度の新収蔵品は、寄贈、収集、購入によって、208点の資料が収蔵された。分野ごとに見ると、自然史分野では、県内では希少な「ナベヅル」をはじめとする鳥類標本や、両生類の骨格標本があった。歴史分野では、昭和10年代の那覇市場や首里、波之上の風景や暮らしぶりを伺い知ることの出来る写真資料等があった。美術工芸分野では、明治11年頃の那覇港から首里までの風景を、京都本願寺から派遣された僧・小栗憲一が山水画風に描いた巻物や、重要無形文化財保持者玉那覇有公氏の「芭蕉蔓草文様両面紅型衣装」等があった。民俗分野では、馬のおもがいの着装模型等があった。

企画展示室の面積の関係上、すべての新収蔵品を展示公開することは困難であった。そのため、各分野の学芸員が資料を抄出し、各分野ごと、寄贈者ごとに、以下の展示略図のとおり陳列、公開した。

なお、平成13年度の全新収蔵品と寄贈者氏名は、小冊子「企画展 新収蔵品展―平成13年度収蔵資料―」に掲載した。



企画展「新収蔵品展－平成13年度収蔵資料－」展示略図  
場所：2階企画展示室

### ミニパネル展「博物館を知ろう」

会期：平成14年5月14日（火）～5月26日（日）

場所：沖縄県立博物館ロビー及びスロープの壁面

主旨：国際博物館会議（International Council of Museums, [ICOM]）が提唱する「国際博物館の日」の制定の日にちなみ、博物館活動を広く県民に周知させることを目的とする。

### 企画展 「見もの 珍しや 誇らしや」－沖縄の文化財展－

（担当：桃原茂夫、園原謙）

会期：（1）企画展：平成14年10月29日（火）～11月24日（日）

（2）パネル展：平成14年10月28日（月）～11月1日（金）

会場：（1）主会場：2階企画展示室

（2）補助会場：各分野展示室、ロビー、スロープ、屋外等

（3）県民ホール（県庁舎1階ロビー）：県立博物館広報展

### 【開催趣旨】

博物館は、文化財を保存し、活用するための主要な施設であることをふまえ、広く県民が貴重な文化遺産にふれる機会を提供し、文化財に対する意識を高めることを目的に沖縄県立博物館が、所蔵している国・県指定文化財を展示・公開する。

また、県民ならびに県庁職員に博物館の存在を知らしめるとともに、より一層の親しみをもってもらい、多くの県民に博物館に足を運んでもらう。

### 【事業内容】

（1）文化の日を中心とした教育・文化月間にちなみ、本館が収蔵している国指定文化財、及び県指定文化財を、博物館2階企画展示室を主会場に展示公開した。

（2）開会行事

記者会見および現場解説会を10月29日（火）午前10時から実施した。

（3）館外においては、県民ホール（県庁舎1階ロビー）で、「沖縄の文化財展」の広報を行うとともに、沖縄県立博物館の全体を紹介する広報展を行った。

（4）展示資料一覧を配付資料として作成し、観覧者の利用に供した。

（5）文化の日を、特別に無料入館としたり、垂れ幕を二本を本館と埠に掲示する等広報活動を工夫した。

### 【展示資料】

（1）国指定文化財（重要文化財）：古文書・典籍、工芸品、歴史資料

（2）県指定（有形文化財）：彫刻、絵画、工芸品、典籍、書跡、古文書、歴史資料

（3）標本資料：特別天然記念物、天然記念物

### 【広報展資料】（県民ホール）

（1）県立博物館の歴史と活動

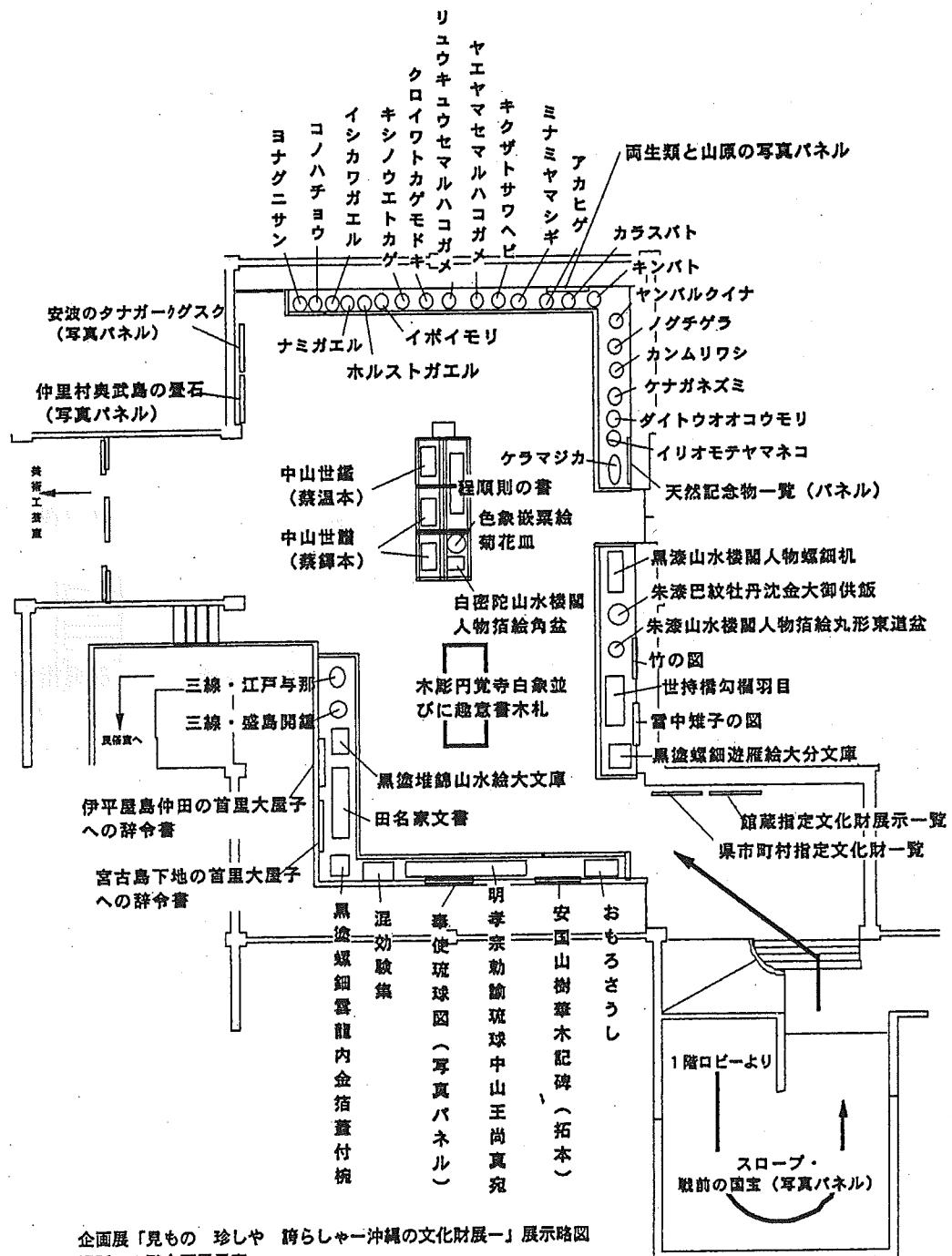
①県立博物館の歴史 ②県立博物館の活動 ③ボランティア活動 ④友の会

⑤刊行物 沖縄県博物館協会

(2) 指定文化財パネル (「文化財展」の広報を兼ねる)

①所蔵文化財一覧 ②歴史、美術工芸分野指定文化財 ③特別天然記念物等

【展示略図】



企画展 平成 14 年度「沖縄ナースものがたり～看護学校の青春群像～」

(担当: 新里彩、與那嶺一子、園原謙)

会期: 平成 15 年 2 月 4 日(火) ~ 3 月 23 日(日)

場所: 企画展示室

【開催趣旨】

平成 14 年 3 月に沖縄県立沖縄看護学校が閉校となり、戦後 56 年間の看護師養成の歴史に幕を閉じました。閉校にともない、同校に保管されていた古いアルバムや写真、教材および校旗や看板等、約 200 点余りの資料が当館に寄贈されました。それらの資料の中から主だった資料を紹介すると同時に、戦後沖縄の看護教育の歩みを紹介し、現代に求められる保健・医療・福祉のあり方を考えることを目的とする。

【開催形態】

主催: 沖縄県立博物館

共催: 沖縄県立看護大学

協賛: (社) 沖縄県看護協会、(社) 沖縄県医師会、(有) 医学写真研究所

【展示内容】

展示構成は、I 沖縄の看護師養成機関の歴史、II 戦後の看護師養成機関、III 看護のこころ、と大きく三つに分けた。I 沖縄の看護師養成機関の歴史では、近代における日本赤十字社の看護師養成機関を紹介し、現在沖縄県にある看護師養成機関を推移表により示した。また、戦時に女学生に対して行われた看護教育の講義記録の実物を展示し、戦後沖縄の看護教育に貢献した米国の看護指導者であるワーターワース氏について紹介し、戦後最初に出された看護婦免状等を展示した。II 戦後の看護師養成機関では、戦後沖縄の看護教育のスタートとなる 3 校の看護学校を紹介し、その後の看護学校の統廃合の歴史、米国布令によるカリキュラム、日本の法律によるカリキュラム、看護教材、学校の看板や校旗、アルバム等を展示し、戦後から平成 14 年 3 月に閉校するまでの県立看護学校の歩みを紹介した。

III 看護のこころでは、看護師にとって門出となる戴帽式を紹介し、看護職にとって最大の名誉であるナイチンゲール記章を取り上げ、出身者の受章者を紹介し、ナイチンゲール記章の実物を展示した。また、これからの看護と題し、高度化する医療・福祉に対応する新しい看護職者の養成を目指す県立看護大学を紹介した。

【関連事業】

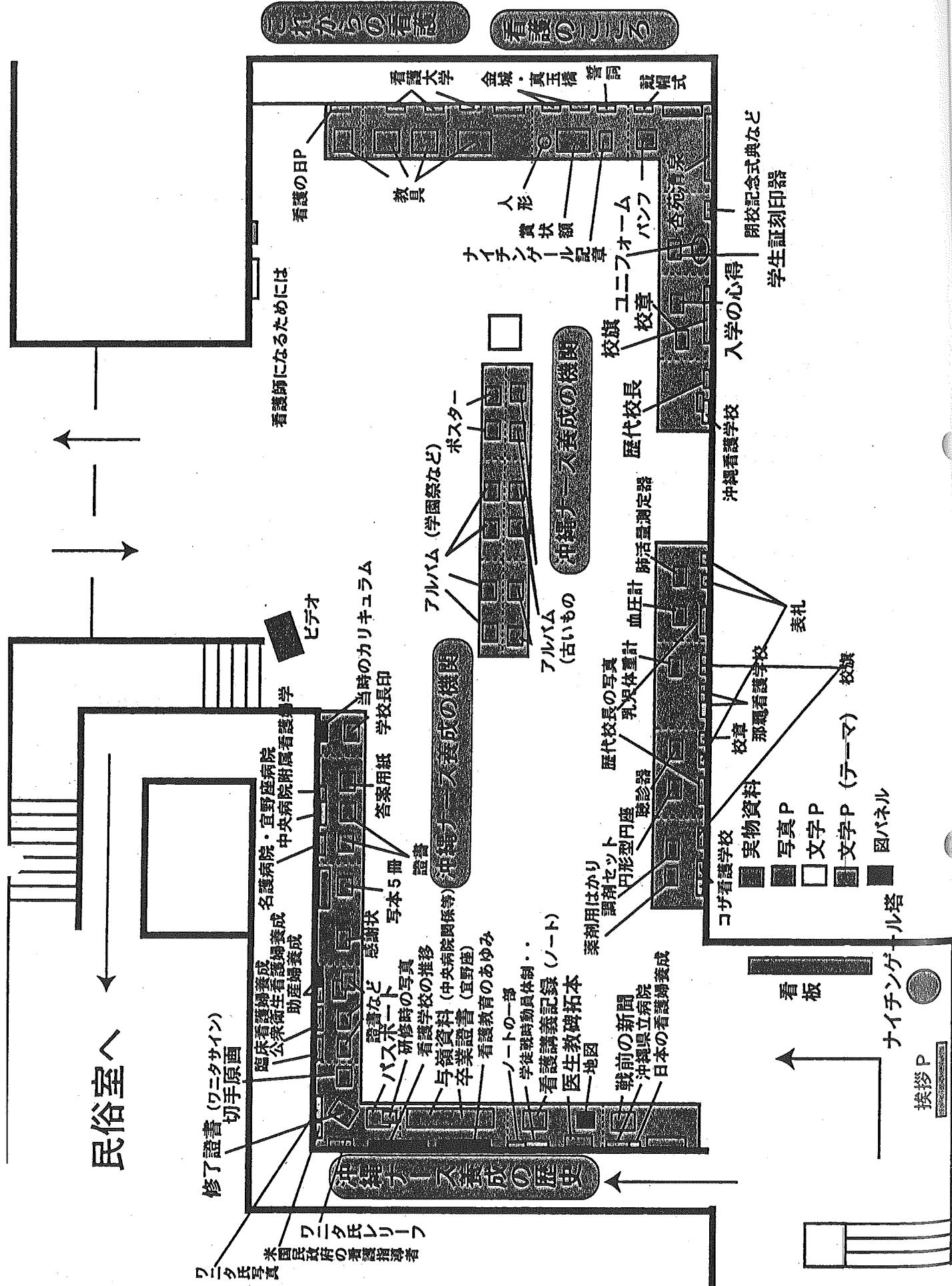
文化講座

演題: 「戦後沖縄の看護学校」

講師: 大城弘子(前沖縄県立沖縄看護学校校長)

日時: 平成 15 年 2 月 9 日(日) 午後 2 時~4 時

場所: 県立博物館講堂



## 5 移動博物館

第 27 回移動博物館（担当：瑞慶山 昇）

会 期：2002（平成 14）年 6 月 21 日（金）～22 日（土）2 日間開催

開催地：多良間村

主 催：沖縄県立博物館、多良間村、多良間村教育委員会

### 【趣 旨】

本県は琉球王国時代から独特の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならぬ。沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の自然・歴史・文化」の展示を行っている。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない離島や、遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第 27 回目は多良間村において開催した。

### 【内 容】

〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈野外観察会〉を実施した。展示は「大むかしの生物」「沖縄の自然歴史、くらし」の 2 つの大きなテーマから構成した。また展示会場内にビデオコーナーを 8ヶ所設け、各コーナーの展示に関連するビデオを上映した。さらに自然について学ぶ野外観察会を合わせて実施した。

### 【展 示 会】

会 場：多良間村立多良間小学校体育館

会 期：2002 年 6 月 21 日（金）～22 日（土）2 日間・午前 9 時～午後 5 時

対 象：幼・小・中・高校生、一般

観覧料：無 料

### 【ビデオ放映】

大むかしの生物コーナー……………恐竜関連映像

沖縄の自然コーナー……………生物関連映像

〃 先史・古代文化コーナー……………港川人関連映像

〃 琉球王国の成立と海外貿易コーナー……………琉球王国関連映像

〃 美術工芸コーナー……………伝統工芸関連映像

〃 くらしコーナー……………民俗関連映像

### 【野外観察会】

日 時：2002 年 6 月 22 日（土）午前 9 時～12 時

講座名：「多良間島の自然」

対 象：学生、一般

定 員：24名

講 師：嵩原 建二（沖縄県立博物館学芸員）

【入場者数】

展示会・・・・・・・・・・・・・ 694人

野外学習会・・・・・・・・・・・・・ 24人

合 計・・・・・・・・・・・・・ 1,378人

【展示品目録】

I 大むかしの生物

《骨格標本》マンモス（複製）、サウロロフス（複製）、タルボサウルスの頭骨（複製）

《化石標本》コレニア、アンモナイト石版、サンヨウチュウ、ハロビア

《沖縄の化石》リュウキュウジカ骨格標本、リュウキュウムカシキヨン角、ミヤコノロジカ骨格標本、リュウキュウジカ角、リュウキュウジカ上顎骨、リュウキュウジカ下顎骨、リュウキュウジカ上腕骨、リュウキュウジカ大腿骨、リュウキュウヤマガメ

《岩石》沖縄産岩石鉱物類

II 沖縄の自然、歴史、くらし

沖縄の自然《野鳥剥製標本》

アカショウビン、オオコノハズク、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、ツバメチドリ、コノハズク、サシバ、サンコウチョウ、シロハラ、シロハラクイナ、ズアカアオバト、カワウ、トラツグミ、シジュウカラ、セッカ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、ヨタカ、リュウキュウヨシゴイ、チョウゲンボウ、タシギ、カワセミ、シロチドリ、セグロカモメ、キアシシギ、チュウシャクシギ、セイタカシギ、ムナグロ、ミソゴイ、ムラサキサギ、カンムリワシ、コミニズク、コハクチョウ、アマサギ、オオクイナ

《哺乳類剥製標本》

イリオモテヤマネコ、オリイオオコウモリ、ダイトウオオコウモリ、ケナガネズミ、マングース、イタチ

《爬虫類剥製標本》ハブ、サキシマハブ、ヒメハブ、セマルハコガメ

《両生類液浸標本》

ウシガエル、イシカワガエル、ホルストガエル、ナミエガエル、イボイモリ

《写真パネル》

コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、アサヒナキマダラセセリ、イソヒヨドリ、カワセミ、カンムリワシ、クロサギ、コサギ、アカショウビン、コチドリ、ツバメチドリ、ヤンバルクイナ、シロハラ、シロハラクイナ、アオバズク、カラスバト、キンバト、ダイシャクシギ、タゲリ、ケリ、ノグチゲラ、カツツブリ、バン、コミニズク、ヒヨドリ、ミフウズラ、アカハラダカ、ムナグロ、メジロ、リュウキュウヨシゴイ、マミジロタヒバリ、オオチドリ、アマミヤマシギ、アマサギ、キヨウジョシギ、キアシシギ、ナミエガエル、ホルストガエル、イリオモテヤマネコ、ケラマジカ、クメトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ

## 沖縄の歴史

### 〔先史時代の文化〕

港川人想定復元全身像（複製）、港川人頭骨（複製）、爪形文土器（野国貝塚）、荻堂式土器、市来式土器、大山式土器、カヤウチバンタ式土器、尖底土器、くびれ平底土器（複製）、カムイヤキの壺、鍋形土器、線刻石板、炭化米、貝斧、石器、石鏃、自然遺物（貝殻）イモガイ・ゴホウラ（ミホン）含、高麗瓦、滑石製石鍋、青磁皿、青磁碗、青磁盤、白磁小皿、赤絵皿、染付皿、円盤状製品

### 《写真パネル等》

発掘のようす（野国貝塚）、層の重なり、古代人の暮らし、貝塚の遺物散布状況、渡具知東原遺跡（遠景）、野城遺跡（遠景）、港川フィッシャー遺跡（近景）、野国貝塚B地点（近景）、勝連城跡（近景）、中城城跡（航空写真）、御物グスク（近景）、具志川グスクの鳥瞰図、首里城跡（正殿跡遺構検出状況）、イモガイの集積、ゴホウラの集積、貝輪装着人骨（具志川島遺跡群岩立地区）、改葬人骨出土状況（具志川島遺跡群岩立地区）、装身具（貝・骨製品）、沖縄先史年表、琉球弧の原始・古代史、貝の道、沖縄本島・周辺離島の主要遺跡分布図、石斧の使用想定図

### 〔琉球王国の成立と海外貿易〕

#### 《拓本・パネル類》明孝宗勅諭、円覚禪寺記、国王頌徳碑

《古銭類》琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、金円世宝・世高通宝・大世通宝、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永樂通宝、咸豐通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、天聖元宝、嘉泰通宝、開禮通宝、端平通宝、元豐通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、咸淳元宝、乾隆通宝、鳩目錢10（一括）、寛永通宝3束

《勾玉類》リング1（18個連）、リング2（8個連）、リング3（8個連）、リング4（小勾玉にビーズ付き）

#### 《印 章》尚育王の印

#### 《金工品》かんざし、万国津梁の鐘（複製）

《古文書・典籍類》おもろさうし（複製本）<卷2・5>2冊、中山世鑑（複製本）<卷1・3>、沖縄志<卷1・2>

### 〔近現代〕

《写真パネル類》琉球国絵図（先島諸島）、ランドサット沖縄諸島写真、国王頌徳碑、那覇の市場・那覇郊外の風景（ペリー日本遠征記）、僧侶と士族（バジルホール航海記）

#### ○戦前の沖縄

〈鎌倉芳太郎氏撮影〉初代尚円王御後絵、首里城正殿、円覚寺仏殿、首里那覇全景、首里城継世門外の赤田町

〈坂本万七撮影〉識名園、玉陵、サーティーグルマ、竹製品を売る店、木臼つくり、壺屋風景物を頭にのせ運ぶ女性、首里金城の風景、市場風景東の大市・壺屋町、魚市、魚売り、ハンタン山、三人の婦人、守礼門、

#### ○沖縄戦

十・十空襲後の那覇の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、戦闘中の米軍・至近弾をうける、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏をよびかける、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民

○戦後～現在

波之上宮、がれきと化した首里城、憔悴しきった老人、D D T散布、戦後のヤミ市、収容所内で発行したうるま新報、うるま新報、ハワイからの衣類到着、裁縫の授業（終戦直後）、城前小学校での演芸会、第九回沖縄議会の状況－志喜屋知事、中学生と握手するブース高等弁務官、A サインバーの内部・沖縄市、B 5 2 墜落事故、毒ガス輸送、アイゼンハワー大統領来沖（琉球政府ビル前）、主席当選を果たした屋良主席、教公二法、返還協定調印式をテレビで見まもる屋良主席、通貨交換所風景

〔美術工芸〕

《絵 画》男女の図（比嘉華山筆）

《漆 器》黒漆山水螺鈿六角食籠、朱漆葡萄堆錦湯庫

《書 跡》尚育書「四時」、中山副使向元模書「対句」、宜湾朝保短冊和歌「新樹風」

《彫 刻》玉陵石獅子（一対）レプリカ

《陶 器》緑釉抱瓶、線彫唐草文からから、家紋入嘉瓶、荒焼徳利、赤絵菊花文対瓶、呉須絵山水文筒花生、黒釉獅子

《染 織》黒朝衣、ハチマチ、木綿黄色地松皮菱繋に扇団扇菊牡丹文様胴衣、木綿白地カカン、木綿紺地花織ティサジ、木綿白地絹ティサジ、宮古上布裂帖、紅型製作パネル、八重山土布製作パネル

《写真パネル》久米島紬製作工程写真パネル、

沖縄のくらしと民具

《へらと掘串とクワ》ヒラ（奄美）、ヒラ（具志頭）、ヒラ（糸満）、宮古ヘラ（平良）、ピラ（石垣）、マーピラ（波照間）、ヘラ（西原）、アサンザニ（今帰仁）、掘串（中城）、カノース（宮古）、ンプリヤ（宮古）、ヒラクワ、タマター、ミマター、開墾用クワ

《役畜用具》面がい着装模型（那覇）、おもがい（宮古）

《漁撈用具》ウミフゾウ、ウミバク、ユートウイ、エーク、ミーカガン、網、ウルワイチズカ（伊平屋）ウミディル、ワラジ（フツ）、タマンバーキ

《竹・茅等の民具》ソーキ、ミーソーキ（久米島）、ユナバーキ（久米島）、ツツカサ（宮古）、ブーイリマグ（城辺）、ガーマキ（黒島）、ガイジ（波照間）、カマンタ、アンデイラ

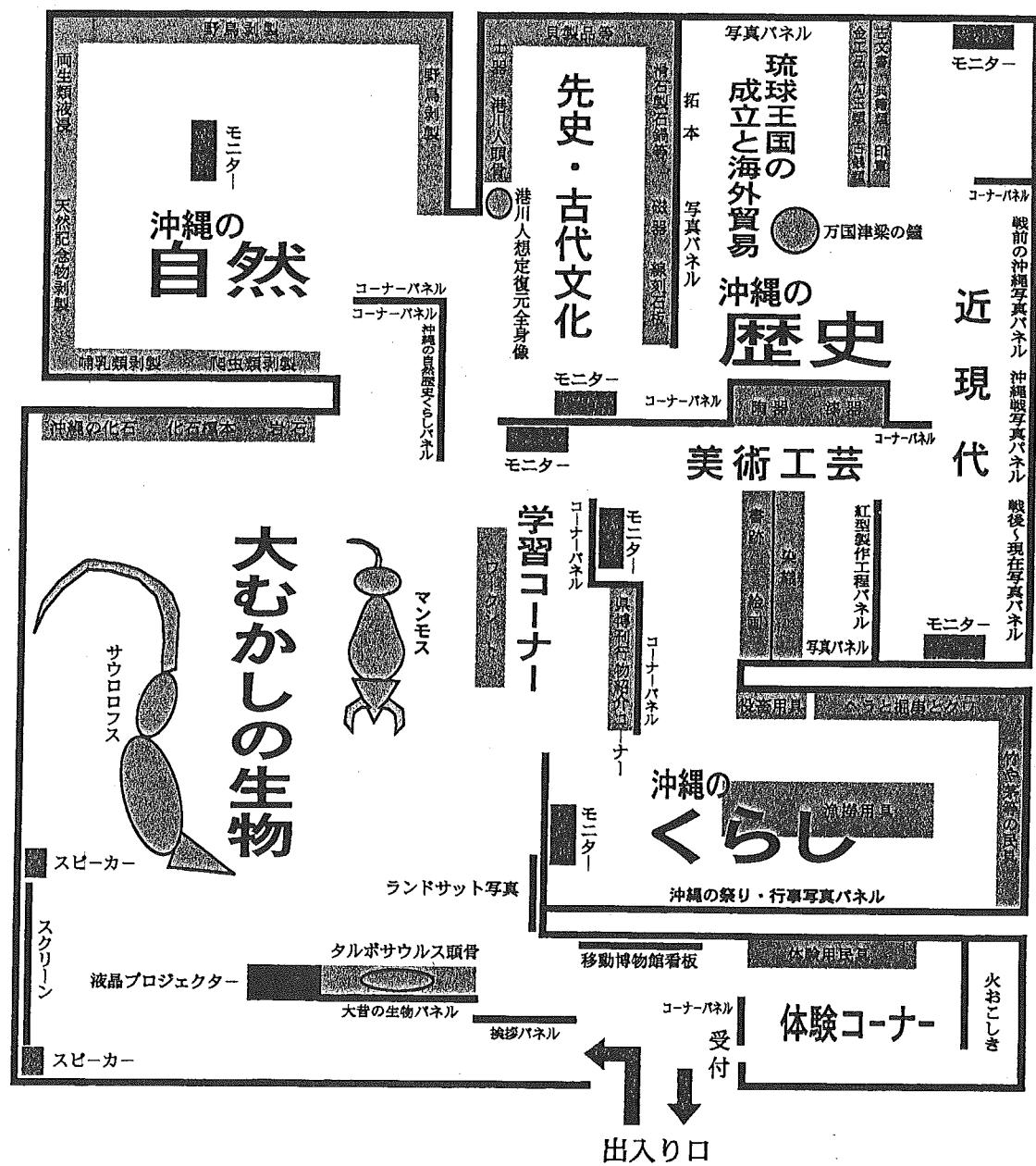
《写真パネル》

○沖縄の祭り・行事紹介

安田のシヌグ、伊平屋のウンジャミ、伊江島の村踊、謝名のアヤチ獅子、湧川の路次楽、綱引き、ハーリー、久高島のイザイホー、池間島のミヤークヅツ、狩俣のウヤーン、宮古島尻パートトゥ、宮古野原のパート、クイチャー、多良間の豊年祭、竹富島の種子取、石垣島のブーリィ、西表島の節祭（祖納）、西表島の節祭（星立）、与那国島の祭事の芸能

# 展示略図

多良間小学校体育館



## V 教育普及活動

### 1 教育普及活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎える博物館に対する県民の関心は日々高まっている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としているが、同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地域における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それがいろいろな目的を持って来館している。

このような来館者の要求により多く応えていくため、当館では平成14年度も多くの博物館事業を実施してきた。今年度の大きな特徴としては、まず第一に総合的学習の導入にともなう体験学習用道具の貸し出し業務や講師派遣の増加が挙げられる。要請があった団体に対しては、まず地域の人材を活用することを勧め、それでもなお人材の確保が困難な場合には館の事業と調整しながら協力をしてきた。またこのほかにも、総合的学習にともなう様々な質問が博物館に寄せられるになった。質問に対しては、「児童生徒が自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力を育て、また学び方やものの考え方を身につける」という総合的学習のねらいにふさわしい対応をこころがけてきた。第二番目には、特別展「港川人展」に関連したシンポジウムや「きからじの世界：琉髪の世界」、「海の群星～漁労体験を交えて～」などの文化講座に多くの受講者が集まったことが挙げられる。日頃から地域の人々の興味や関心に目をむけながら、沖縄の歴史・文化・自然に関する情報をこれからも発信していきたい。第三番目には、当館のボランティア活動事業が10年目を迎えたことが挙げられる。10年間に積み重ねてきたボランティアの創意工夫をこれからも生かしていくことが求められている。

教育普及活動の面では、多くの県民が博物館を身近なものとして利用できるよう多彩な事業をこれからも計画し実施していきたい。

教育普及課の事業への参加者総数は、2,076名。

以下、今年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 博物館文化講座の実施（特別文化講座を含め321回～332回）
2. 子供放送局事業の実施
3. 第27回移動博物館（多良間村）の開催
4. 博物館シアターにおける映画の上映
5. 「博物館」体験学習教室の実施
6. ボランティア活動事業の実施（解説・点字資料の作成・博物館だよりの録音等）
7. ホームページの作成
8. 博物館を利用する団体への研修
9. 来館者への展示解説
10. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だよりの編集・発行
11. 学校による博物館学習のための事前打ち合わせ
12. 児童生徒の団体見学へのオリエンテーション
13. 児童生徒への学習相談
14. 団体見学者へのビデオサービス
15. マスコミ等への博物館事業の広報活動
16. 学校等への体験学習用道具の貸し出し
17. 博物館友の会への協力

## 2 博物館文化講座（担当：譜久村照代）

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する沖縄の自然・歴史・文化などについて、分かりやすく学習することを目的に1974年から始まった事業である。講座は毎月1～2回、土曜日もしくは日曜日の午後2時から4時までの2時間を利用し、当博物館講堂にて行っている。また、年に数回の野外講座も行っている。

平成14年度は、各分野に関連するテーマで歴史3回、考古1回、美術工芸2回、自然2回、民俗4回の全12回の文化講座を実施した。講座は、講師の体験やエピソードを交えた話や実演など、わかりやすい内容で受講者が楽しく学べるようにした。特に、第321回「きからじの世界～琉髪の結い方～」では、自らの体験を交えた話や琉髪の結い方の実演を行い、200名余りの受講者から好評をいただいた。

また、1997年度から始めた「受講者アンケート」も継続して行った。これをもとに次年度の講座内容を決定するので、今後も受講者の声を反映させるためにアンケート調査を継続していく。

受講者総数1246名。

### 第321回 「きからじの世界～琉髪の結い方～」

講 師：小波則夫（琉球髪結師）

日 時：5月18日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：小波氏が役者を経て髪結師になった経緯や、琉髪の種類、その結い方の実演も行う。

参加者：217名

### 第322回 「収蔵品解説会～彫刻～」

講 師：津波古聰（県立博物館学芸課長）

日 時：6月15日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：旧円覚寺の仏像を中心に、収蔵資料（彫刻）の解説をする。

参加者：49名

### 第323回 「海の生物の観察」

講 師：屋比久壮実（生態写真家）

日 時：7月21日（日）

場 所：具志頭村海岸

内 容：浜辺、礁原、イノー（礁池）、ノッチで見られる生物を観察する。

参加者：34名（野外のため定員40名）

### 第324回 「方言で語る首里の暮らし」

講 師：宮里朝光（沖縄方言普及協議会会長）

日 時：8月3日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：主に首里の御殿・殿内の暮らしについて、首里の方言で語る。

参加者：195名

### 第325回「考古学からみたフィッシャー遺跡」

講 師：岸本義彦（沖縄県教育庁文化課主任専門員）

日 時：9月7日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：平成10年度から13年度まで実施された港川フィッシャー遺跡の発掘調査の成果と今後の課題について。

参加者：130名

### 第326回「海の群星～漁撈体験を交えて～」

講 師：稻福政吉（漁撈研究家）

日 時：10月19日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：糸満売りされた少年たち（ヤトイシングワ）の暮らしについて、自らの体験を基に語る。

参加者：123名

### 第327回「久高島の民俗とイザイホー」

講 師：湧上元雄（玉城村文化協会会長）

日 時：11月24日（日）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：久高島のイザイホーについて、映像や自らの調査体験を交えて語る。

参加者：171名

### 第328回「近世琉球の海運と海人」

講 師：豊見山和行（琉球大学助教授）

日 時：12月1日（日）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：近世の中郷貿易や鹿児島・琉球国内での海上交通や、それに携わっていた人々（海人）について、漂流・漂着の面からお話しいただく。

参加者：87名

### 第329回「野鳥観察会」

講 師：嵩原建二（県立博物館指導主事）、山城正邦（野鳥の会会員）

日 時：1月19日（日）

場 所：漫湖公園、具志・瀬長島周辺

内 容：漫湖講演や具志・瀬長島周辺で、野鳥や自然を観察し解説する。

参加者：41名（野外のため定員40名）

### 第330回「戦後沖縄の看護学校」

講 師：大城弘子（沖縄県福祉保険部参事）

日 時：2月9日（日）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：公立（県立）の看護学校を中心に、戦後沖縄の看護教育の変遷について語る。

参加者：57名

### 第331回「首里の文化財めぐり」

講 師：萩尾俊章（県教育庁文化課文化財係長）

日 時：2月15日（土）

場 所：首里周辺の文化財を見て歩く。

内 容：首里近郊の史跡や文化財を巡る。

参加者：40名（野外のため定員40名）

### 第332回「糸の話～編むと織る～」

講 師：片岡 淳（琉球大学助教授）

日 時：3月9日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：糸を使ってできる「編む」と「織る」について、実際に体験しながらその違いを学ぶ。

参加者：102名

## 3 衛星通信を利用した子ども放送局

主 催：文部科学省

受信場所：沖縄県立博物館講堂

### 【趣旨】

この事業は、完全学校週5日制のスタートまでに地域で子どもを育てる環境を整備し、親と子のさまざまな活動を支援する「全国子どもプラン」の一環として、文部科学省により平成11年度から実施しているもので、それを受信して実施している。

### 【内容】

子ども放送局は、放送をおして子どもたちの「心の教育」や「科学技術への夢を育む」ことを目的として平成11年7月31日から第2・第4土曜休業日実施され、スポーツ選手や科学者、ボランティア活動のリーダーたちが、それぞれの分野の魅力について子どもたちに語りかける内容となっている。平成14年度からは毎週土曜休業日の実施となった。

### 【取り組みの方法】

1. 子ども放送局番組の広報については、チラシを近隣の学校・公民館・図書館・児童館など15の施設へ郵送する。
2. 月1回の首里地区行政連絡協議会の席でチラシを配布する。
3. 子ども放送局上映2週間前に、正門前に立看板を設置し広報を行う。
4. 新聞等で子ども放送局の告知を行う。

### 【総括】

この事業は、衛星通信を利用して子ども放送局の番組を多くの子どもたちに見てもらうことを目的としている。しかし、博物館の展示内容にそぐわない番組の場合は上映を控えている。また、第2・第4土曜休業日には、「博物館体験学習教室」や「博物館文化講座」を実施していることもあります、見合わせる事もあった。このように、当館では年に数回の上映日しかない上に、広報活動も日常的なものではなく上映前に行うため、周知不足もあり毎回の参加者は多くない。

平成14年度は、博物館事業との兼ね合いもあり2回しか上映できず、参加者も前年度同様少なかった。次年度以降は、博物館事業と調整をしながら、夏休みや冬休みなどの期間に開催時期を設置した方がよいだろう。

#### 4 博物館シアター (担当: 瑞慶山 昇)

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために平成6年度から実施している事業である。

自然、歴史、民俗などをテーマにした映像、および世界の芸術文化をあつかった映像等の映写会を内容とし、県立博物館講堂において午後2時から実施している。

平成14年度は、「喜劇王たちの世界」と言うタイトルで、映画史上に独特な喜劇の世界を築いた「チャールズ・チャップリン」と「バスター・キートン」の作品の中から、2本を紹介した。また「夏休み親子アニメ祭り」と言うタイトルで、夏休みに親子で楽しめるようにアニメーションを10本上映した。

##### シリーズ〔喜劇王たちの世界〕

第56回 期日: 2002(平成14)年4月28日(日)

映画①: 「サイレントチャップリンの百万長者」モノクロ 40分

内容: 映画史上に残る喜劇王チャップリンのサイレント作品。監督はマック・セネット。

映画②: 「弁士音声キートンの西部成金」モノクロ 70分

内容: バスター・キートンが脚本、監督、主演を行った1925年制作の作品。

入場者: 121名

##### シリーズ〔夏休み親子アニメ祭り〕

第57回 期日: 2002(平成14)年8月4日(日)

映画①: 「一寸法師」カラー 14分

内容: 都へ修行にきた一寸法師が、鬼をたいじしお姫様と幸せになる日本民話。

映画②: 「かさじぞう」カラー 10分

内容: ある年の暮れの、正直者のおじいさんとおばあさんと、おじぞうさまの心あたたまる話し。

映画③: 「つるのおんがえし」カラー 18分

内容: 助けられた鶴が美しい娘になって、見事な布を織るという民話。

映画④: 「はだかの王様」カラー 20分

内容: ゼいたくで、わがままな王様がペテン師にだまされて、はだかになって街を歩くにいたるまでを描いたアンデルセンの名作。

映画⑤: 「ヘンゼルとグレーテル」カラー 20分

内容: 森の中に置き去りにされた兄妹が、いろいろな冒険の末に家に帰り着く。どんな困難にも勇気を失うことなく、励まし合うことの大切さをうたう。

入場者: 156名

第58回 期日: 2002(平成14)年8月11日(日)

映画①: 「ウサギとカメ」カラー 12分

内容: 怠けていては勝利はありえないことを、カメが教える。

映画②: 「泣いた赤おに」カラー 15分

内容: 人間と仲良しになりたいと思っている赤おにと、親友の青おにのおはなし。

映画③: 「ちから太郎」カラー 12分

内容: アカから生まれた日本一の力持ちのおはなし。

映画④: 「はくちょうになったあひるの子」カラー 20分

内容: 「みにくいアヒルの子」が、実は美しい白鳥のヒナだったというおはなし。

映画⑤: 「赤ずきんちゃん」カラー 10分

内容: 病気のおばあちゃんを見舞いにいく女の子と狼のおはなし。

入場者: 61名。

## 6 博物館体験学習教室

### <事業の経過>

博物館体験学習教室の事業は、学校週5日制に伴う児童・生徒の自主的な活動を支援するための新規事業として、平成5年度から開設してきた。平成5年度から平成12年度までの8年間は、「子ども体験学習教室」の名称による親子を対象とした体験学習であった。体験学習の内容が県民に普及するにつれて一般からの受講希望の声が多くなり、平成13年度から受講対象者を親子から一般まで拡大し、事業名も「子ども体験学習教室」から「博物館体験学習教室」に改め実施することにした。

#### 「サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう」

講 師：与儀喜邦（元高校教諭）

期 日：4月26日（土）、7月6日（土）、10月26日（土）

12月14日（土）、12月15日（日）

場 所：県立博物館及び体験農場

参 加 者：のべ285名

内 容：当講座は、5回受講して体験する八ヶ月間に及ぶ長い体験講座であった。

一回目は、博物館講堂でサトウキビについてのビデオ学習をした後、西原町小那覇にある体験農場に場所を移動して苗の切り方を学び、押し切りを使って採苗学習をした。今回植え付けした品種は、台風に強くて糖度が期待される農林8号にした。当日は、博物館ボランティアの応援もあり、農具の使い方から植え方までの細かいところまで手伝って頂いた。10グループを編成しての学習活動であったが、サトウキビの硬さや土の臭いを体感しながら約50坪の面積に植え付けをすることができた。二回目は、約70cm成長しているサトウキビを観察学習した後、サトウキビ畑の雑草を数種類取り上げて、その特徴等の学習をした。家族で参加している受講生や経験豊富な大人が一緒になり、草取りと追肥を行った。三回目は、約1m成長したサトウキビの枯葉とりと再度の草取りをした。四回目は、梢頭部の切り方や根の切り方を学んだ後、刈り取り学習をして黒砂糖づくりにつなぐことにした。五回目の最後は、前日に刈り取ったサトウキビを原料にして黒糖づくりを行った。三転式のさとうきび搾り機を使って、キビしぶり体験、しぶり汁のこしとり体験、シンメーナービでの煮込み体験を行い、黒砂糖づくりの製造法を学んだ。



採苗学習



植え付け学習



キビしぶり体験

#### 「ウチナーそばをつくろう」

講 師：比嘉和行（じじゃや一鳥の会）

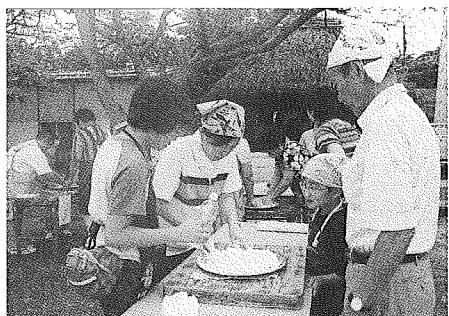
期 日：5月25日（土）、6月1日（土）

場 所：県立博物館

参 加 者：のべ70名

内 容：親子参加の受講生や一般参加の受講生35名が二日間をかけてウチナーそばを追いかける体験学習であった。一日目は、ウチナーそばの作り方や特徴等についてビデオ学習した後、博物館教育ボランティアと収集してきたガジマルやディゴの枯木を燃やして木灰づくり

りを行った。木灰づくりは体験学習当日の午前中で終わらず翌日までかかった。公害防止条例による規制があり、屋外で火を燃やすことが厳しくなっているからである。那覇市の環境保全課や首里消防署に趣旨説明をし、指導を受けての木灰づくりであった。特に、沖縄県立博物館の周辺は住宅街でもあり、風向きや煙の量などを慎重に考慮しながら行った。木灰づくりと併行して講師の準備した灰汁を使ってウチナーそばに適した灰汁の比重測定の体験をした。二日目は、受講生を10グループに編成して体験学習を展開した。初日に出来上がった木灰から作った灰汁を使ってのそば打ち、そば麵の切り方を学び、シンメーナービで麵を茹でてウチナーそばの作り方を楽しんだ。



おじいちゃんと一緒に



仲良くそば打ち学習



手作りのそば試食

### 「石うすを使って豆腐をつくろう」

講 師：上原泰一（西崎豆腐店代表者）

期 日：9月22日（日）

場 所：県立博物館

参 加 者：57名

内 容：当時は、小・中学生33名の親子と一般参加の受講生を含めた57名を5つのグループに編成しての体験学習であった。学習の内容は、石うすを使って呉汁を搾りだして豆乳を作り、シンメーナービを使ってゆし豆腐づくりと箱詰めをしての豆腐づくりである。今回は、学校での総合的な学習や家庭での豆腐づくりのことを考慮して、家庭用のなべを使って作る方法とシンメーナービを使って作る方法の二通り行った。沖縄県立博物館の石うすは、取り合わせの石うすが多く、大豆のすりつぶしにムラが多かったことから、博物館ボランティアの与儀喜邦氏の御協力で目立ての施しをして頂いた。当日は、子どもたちが中心になって活動し、一般の受講生は場づくりや子どもたちの支援に回ることとした。石うすをひく場面では、石うすが大きくどの子も力一杯のうす回しでの体験活動であった。呉汁の布越し学習でも力一杯の活動が多く、グループの大人と交替しながら和気あいあいの体験学習であった。苦汁を入れるタイミングや加熱の調整や塩味の入れ具合等を学習して、昼食時に情報交換をしながら好評のうちに終了した。



石うすひきにチャレンジ

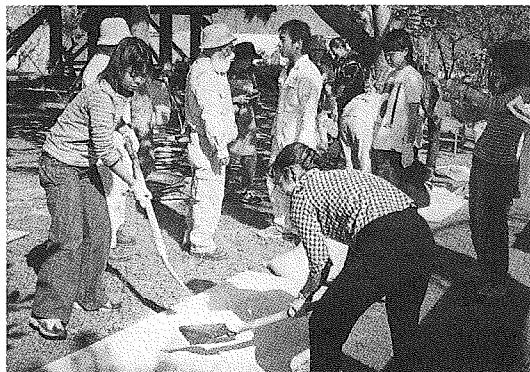


「なかなかおもしろいな」

## 「しつくいシーサーをつくろう」

講 師：宮城光男（八洲工房主宰）  
期 日：11月9日（土）、11月10日（日）  
場 所：県立博物館中庭  
参 加 者：のべ80名

内 容：これまでの当講座は、最初から足や胴体や頭などの瓦の骨組みを準備しての体験学習であったが、今回の講座は、自然に割れた瓦片を使いながら形も大きさも違うシーサーづくりをめざしてのスタートであった。講座の導入場面で変化つけた理由は、これまでの講座で製作したシーサーの出来上がりが似すぎていたり、整いすぎていたり、ユーモアのある、個性あふれるシーサーが少なかったとの反省からである。最初にしつくいと砂と白セメントを混ぜる比率を考え、グループ毎に練り合わせ学習をした後、瓦を受け取りシーサーの製作学習に入った。一日目でほぼ完成させ、二日目は手直しをやり、個性あふれる作品を完成させていった。



しつくいの練り合わせ



どんなシーサーになるかなあ

## 7 ボランティア活動

沖縄県立博物館におけるボランティア活動は、平成5年に策定した「沖縄県立博物館ボランティア活動」にもとづき進めてきた。平成14年は、5月に博物館ボランティア総会にて役員体制を強化し、また各月の定例のボランティア運営委員会で年間の事業内容を確認しながら事業を実施してきた。

博物館においては「博物館ボランティア養成講座」を8回実施し、講座を終了したものの中から活動を希望するものについてボランティアの登録を受け入れてきた。本年度は、男17名 女54名、計71名の登録があった。さらに登録をしたボランティアには「総合的学習におけるボランティアの役割」など計8回の「博物館ボランティア専門講座」を実施し、研修の機会を提供してきた。今年度の活動の中で特徴的なことは、特別展「港川人展」の活動支援に延べ161名の参加があったこと、また養成講座のシンポジウムをボランティア自身で運営したことなどが挙げられる。

年間をとおしてのボランティアの活動には、延べ932名の参加者、養成講座には延べ160名、専門講座には197名の受講者があった。

ボランティアの養成講座及び専門講座は、下記のとおりであった。

<博物館ボランティア養成講座> 受講者 延べ160名

回数	期 日	分 野	講 師 名	演 題
1	6月12日(水)	教育普及	前田真之	博物館におけるボランティアの役割
2	6月26日(水)	博物館学	津波古聰	博物館における活動ってどんなもの
3	7月10日(水)	歴 史	園原謙	歴史展示の構成とその特徴
4	7月17日(水)	自 然	嵩原建二	自然史展示の構成とその特徴
5	7月24日(水)	民 俗	桃原茂夫	民俗展示の構成とその特徴
6	7月31日(水)	美術工芸	與那嶺一子	美術工芸展示の構成とその特徴
7	8月 7日(水)	教育普及	ボランティア	シンポジウムここがいいんだよボランティア
8	8月14日(水)	教育普及	玉城善哲	体験学習におけるボランティアの支援

<博物館ボランティア専門講座> 受講者 延べ197名

回数	期日	分野	講師名	演題
1	10月9日(水)	教育普及	安里恒男	総合的学習におけるボランティアの役割
2	10月16日(水)	歴史	園原謙	私の薦めるスポットガイド
3	11月6日(水)	教育普及	玉城善哲	小学校3年生の民具体験を学ぶ
4	11月13日(水)	民俗	桃原茂夫	私の薦めるスポットガイド
5	11月20日(水)	教育普及	玉城善哲	体験学習用道具の使い方を学ぶ
6	11月27日(水)	歴史ほか	新城紀秀	宜野座・石川の戦後を学ぶ
7	12月11日(水)	美術工芸	津波古聰	私の薦めるスポットガイド
8	12月18日(水)	自然	田中聰	私の薦めるスポットガイド

## 8 支援活動

### 団体への学習支援

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然に対する関心は児童生徒のみならず多くの階層にまたがってきてている。そのためそれぞれのニーズに対応した形で研修を進めていくことが課題となってきている。

#### 1. 小中学校への取り組み

- ・小中学校の児童に対しては、見る・触る・体験するの五感を活用した学習を展開するため、とりわけ3年生を対象とする資料などを収集し、学習で活用してきた。
- ・3年生の博物館学習が定着してきた。
- ・暮らしの道具を使う中から学習課題等について理解が深まるよう取り組む。
- ・緊急雇用対策事業で製作した黒糖搾り機・高機・豊穴住居・移動式展示セットの借用を希望する団体が学校から地域まで広がりをもつようになってきた。
- ・学校等における支援は地域にゆだね、館における対応に重点を置く。

#### 2. 高等学校への取り組み

- ・県外高校生の博物館学習は、桜華女子学院のように班別・テーマ別学習の形態を取るようになってきており、博物館の担当者によるコーディネイトにより対応した。
- ・県内の高校生への対応は、総合的学習や学園祭に向けての学習が主なものであった。

#### 3. 矯正施設の児童の見学受け入れ

#### 4. 企業等による博物館研修

- ・平成7年度に行われた琉球銀行の新入行員研修以来、博物館と連携した形での企業研修は実施されていない。

#### 5. デイ・サービス事業や老人会・婦人会の活動の一環としての博物館来館

- ・デイ・サービスの一環として来館される団体があった。
- ・老人会や婦人会など地域の団体見学も増えている。
- ・休息なしの長時間見学は無理なので、リラクゼーションの観点から今後博物館がどのような対応を取れるのか検討を要する。

## VI 博物館学芸員実習

当館では平成5年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度からは沖縄国際大学で学芸員養成課程の講座が開設され、平成7年度からは琉球大学、平成8年からは県立芸術大学でも同科目が開設されたことに伴い、それぞれの大学から実習生を受け入れてきた。また、県外大学からの実習生については、地元出身の学生を対象として、受講生の総数を勘案しながら受け入れている。

いままで各大学ごとに実習を実施してきたが、当館の施設の狭隘と事業などの関係から平成14年度からは、年2回とし、各大学ごとの枠をはずして行った。平成14年度は、沖縄国際大学7名、琉球大学9名、沖縄県立芸術大学1名の他に大正大学1名、高知女子大学1名の計19名を受け入れて実習を行った。

実習した科目と指導学芸員、及び実習期間と実習生は下記のとおりであった。

### 1. 実習科目と指導学芸員

- |                                      |             |
|--------------------------------------|-------------|
| (1) 博物館の管理運営(関係法規、組織、予算、関係団体等) ..... | 森山晃副館長      |
| (2) 博物館保存施設と保存環境 .....               | 平良 盛明       |
| (3) 学芸業務の考え方と実際 .....                | 津波古聰学芸課長    |
| (4) 博物館資料の受入、分類、原簿記載実習 .....         | 與那嶺 一子      |
| (5) 考古資料の取扱い .....                   | 仲座宜久        |
| (6) 歴史資料の取扱い実習 .....                 | 園原 謙        |
| (7) 自然観察実習と環境教育 .....                | 嵩原 建二       |
| (8) 自然史資料(動物・他)の取扱い実習 .....          | 嵩原 建二、田中 聰  |
| (9) 自然史資料(化石、鉱物等)の取扱い実習 .....        | 宮城 勉        |
| (10) 美術工芸資料(染織・書跡)の取扱い実習 .....       | 與那嶺 一子      |
| (11) 美術工芸資料(漆器、陶器)の取扱い実習 .....       | 津波古聰学芸課長    |
| (12) 美術工芸資料(絵画)の取扱い実習 .....          | 瑞慶山 昇       |
| (13) 民俗資料の取扱い実習 .....                | 桃原 茂夫       |
| (14) 博物館の展示方法について .....              | 津波古聰学芸課長    |
| (15) 企画展示の実際について .....               | 津波古聰学芸課長    |
| (16) 展示活動の実際と教育普及補助業務 .....          | 朝日政子、喜久川 智子 |
| (17) 教育普及の考え方と実際 .....               | 前田真之普及課長    |
| (18) 教育普及活動の実践 I .....               | 瑞慶山 昇       |
| (19) 教育普及活動の実践 II .....              | 玉城 善哲、譜久村智代 |
| (20) 実習日誌のまとめ .....                  | 津波古聰学芸課長    |

### 2. 実習期間

第1回 平成14年5月27日(月)～6月15日(金)

第2回 平成14年10月21日(月)～11月1日(金)

### 3. 実習生

第1回 (11名)

No	氏名	校名・学部名	専攻	学年
1	翁長朝	沖縄国際大学		科目履修生
2	大城里三佳	沖縄国際大学法学部法学科		4年次
3	兼本姿子	沖縄国際大学		科目履修生
4	田中真紀	沖縄国際大学		科目履修生
5	山里麻衣子	沖縄国際大学		科目履修生
6	川上文子	大正大学文学部日本語日本文学科		4年次
7	高木尚子	琉球大学法文学部人間学科	人類学	4年次
8	伊地知裕仁	琉球大学国際言語文化学科	琉球歴史文化コース	4年次
9	名嘉祥子	琉球大学国際言語文化学科		4年次
10	糸満温子	琉球大学農学部生産環境学科	農地環境管理学	4年次
11	山田清香	琉球大学農学部生産環境学科	森林生産環境学	4年次

第2回 (8名)

No	氏名	学部学科	専攻	学年
1	秋本真孝	沖縄国際大学社会学科		4年次
2	郭嘉林	沖縄国際大学		科目履修生
3	山城昌子	沖縄県立芸術大学		科目履修生
4	福留舞香	琉球大学法文学部人間学科	社会人類学	4年次
5	下里美帆	琉球大学法文学部人間学科	地理・人類学	4年次
6	小林絵里	琉球大学理学部海洋自然学科	生物	4年次
7	川原剛	琉球大学理学部海洋自然学科	生物	4年次
8	池間政子	高知女子大学文学部文化学科		4年次

VII 資料の収集・保存管理

1 収蔵資料現在高

平成 15 年 3 月 31 日現在

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	591	25,474	6	1	26,072
	動物	1,105	18,335	497		19,937
	植物	1	1,350			1,351
美術工芸	絵画	82	542	1	4	629
	書跡	179	402	51	6	638
	彫刻	5	114	136	7	626
	陶磁器	431	3,282	464	537	4,714
	漆器	230	216	195	19	660
	染織	1,086	1,611	51	27	2,775
	工芸		1			1
歴史資料	2,690	6,564	333	126	9,713	9,713
考古資料	4	3,562	2,839		6,405	6,405
民俗資料	552	3,798	1,072	137	5,559	5,559
総計	6,956	65,251	5,645	864	78,716	78,716

2 平成14年度(2002)新収蔵資料高

平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日

分類	購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質		1			1
	動物	1	13			14
	植物					
美術工芸	絵画					
	書跡		3			3
	彫刻					
	陶磁器		1			1
	漆器		1			1
	染織		71			71
	工芸					
歴史資料	53	359		1	413	413
考古資料						
民俗資料		61			61	61
総計	54	510		1	565	565

### 3 平成14年度(2002)新収蔵資料目録

#### 【寄贈の部】

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
動物	液浸標本：ヒロテコシビロダンゴムシ 他	10	布村昇	
動物	カグラコウモリ (本剥製)	1	本成尚	
動物	トラフズク (本剥製)	1	西表野生生物保護センター	
書跡	尚健書対句 他	2	罕宮城澄	那霸市
書跡	掛軸	1	国吉鉄雄	那霸市
漆器	黒漆龍丸流水文箱絵櫃	1	中村佳子	熊本県
陶磁器	染付鶴丸碗	1	罕宮城澄	那霸市
染織	絹黄色地縫緝着物	1	儀保トヨ・新里征子	那霸市
染織	苧麻紺地宮古上布着物	1	友利カズ	那霸市
染織	絹灰色地縫織ワンピース他	68	漢那朝輝	浦添市
染織	絹灰色地縫緝着物 (壽字入り模様)	1	三宅春子	東京都
歴史資料	額 「杏苑清泉」他	198	沖縄県立沖縄看護学校 (校長大城弘子)	那霸市
〃	「紙面にみる朝日新聞95年」	1	宮城勉	那霸市
〃	官許首書画入六諭衍義大意付録卷之下	1	岡本恵昭	平良市
〃	ナイチングール塔	1	真玉橋ノブ	那霸市
〃	ガラス乾板他	59	仲座巖	那霸市
〃	紙草紙「弓張月十一編上」他	14	謝名元慶福	那霸市
〃	万延二朱金他	45	金城一史	那霸市
〃	50銭銀貨 50 Sen (Silver) Phoenix他	4	平野常雄	佐賀市
〃	辞令書 (具志川出張所勤務) 他	7	罕宮城澄	那霸市
〃	指輪他	3	大田征夫	那霸市
〃	パスポート	2	岩元洋子	東京都
〃	県立水産専修学校の校旗	1	野々村孝男	那霸市
〃	『沖縄教育』昭和十一年八月号他	6	平野洋・キヨ子	千葉県
〃	写本した教科書	4	兼本良子	浦添市
〃	名護病院附属看護婦学校卒業證書他	8	仲松江美	那霸市
〃	特殊切手「世界遺産シリーズ第十集」(1シート)	1	首里郵便局長 次呂久長壯	那霸市
〃	写真：在米邦人による尚昌氏歓迎会 他	4	宮城嗣幸	与那原町
〃	档案史料「勅諭琉球國中山王世子尚泰」の複製品	1	永福・潘俊英	中国
民俗資料	寝袋 (毛布製) 他	2	罕宮城澄	那霸市
〃	琉球筝曲工工四 上巻 他	10	Bonnie N. Miyasiro	米国
〃	カセットテープ及CD「宮古ぬ謡心」他	6	砂川功	豊見城市
〃	呪符資料	26	岡本恵昭	平良市
〃	テーランプ他	2	稻福政吉	那霸市
〃	琉球琴	1	山城みつえ	熊本県
〃	ンムクジシリー	1	兼浜信規	豊見城市
〃	海ワラジ他	3	山城勝行	那霸市
〃	オーダー	3	金城盛榮	那霸市
〃	ランプのホヤ	1	島袋哲博	名護市
〃	タンス他	2	国吉鉄雄	那霸市
〃	ムックリ (アイヌの口琴) 他	2	山本桂	札幌市
〃	稻扱竹管 (フンドース)	1	平西朝育	竹富町
〃	筌	1	嵩原建二	読谷村

#### 【移管の部】

分類	品名	数量	提供先
歴史資料	国絵図伊平屋鳴図	1	沖縄県教育庁文化課

#### 【収集の部】

分類	品名	数量	所在地
動物	オオヒキガエル (本剥製)	1	石垣島

#### 【購入の部】

分類	品名	数量
動物	アフリカマイマイ (複製)	1
歴史資料	錦絵「椿説弓張月」	3
〃	戦後新聞	50

#### 4 所蔵の指定文化財

### 国指定文化財（重要文化財）

平成 14 年 3 月 31 日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書・典籍 々	おもろさうし 混効験集	22 冊 2 冊	昭 48. 6. 6 々	沖縄県立博物館 々	沖縄県 々
工芸品 々 々 々	銅鐘 (旧首里城正殿鐘) 梵鐘 (旧円覚寺殿前鐘) 梵鐘 (旧円覚寺殿中鐘) 梵鐘 (旧円覚寺樓鐘)	1 口  3 口	昭 53. 6. 1 々	沖縄県立博物館 々	沖縄県 々
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛	1 卷	平 11. 6. 7	沖縄県立博物館	沖縄県

県指定文化財（有形文化財）

平成 15 年 3 月 31 日現在

## 5 収蔵資料整理事業

### I. 事業の目的と経過

沖縄県立博物館は、沖縄陳列館（昭和 20 年開館）を前身として 58 年の歴史を有し、現在 78,716 点（H15.5.31 現在）の資料が収蔵されている。この約 50 年間に合併、移転さらに復帰による機構改革などにより、収蔵資料の管理においては一部未整備である。このことから当事業は、今後の新館開館移転のために、未登録資料の整理登録、収蔵資料の整理・保管等収蔵資料の移動等に支障がないような移転準備作業の一環として、実施されているものである。これまでの成果として、収蔵されている厨子甕の実測整理や収蔵古写真の複製と分類・整理等については、委託業務として実施した結果、分類・整理作業にかなりの進捗が見られる。

また、マルチメディア時代に対応して、県民及び来館者のニーズに答えるためには、収蔵品台帳や原簿等による収蔵資料の管理保管だけでなく、博物館情報のネットワーク化を推進していくことが不可欠である。このことから利用に応じた収蔵資料一覧表の作成や収蔵資料の検索等が可能になるよう平成 6 年度に収蔵資料管理システムを構築し、以来、収蔵品台帳等収蔵資料管理の電子化（コンピュータ化）を推進し、収蔵資料の基礎情報となる文字データ及び画像データの充実がデータ入力等の作業を継続的に行ってきただところである。

### II. 事業の内容及びこれまでの実績

#### ◎収蔵資料整理作業

収蔵資料の台帳整理・未登録資料の分類・整理登録  
保管庫・整理棚の設置（プレハブリース・棚の製作）  
各分野整理棚製作（委託）  
写真パネル等の作成・整理（委託）  
厨子甕の実測・整理作業（委託）  
自然史標本（剥製）の作成（委託）

#### ◎台帳電子化（コンピュータ化）作業

データベースシステムの開発・導入・運用  
システムのハード機器及びソフトウェアの整備  
収蔵資料データ入力（文字・画像データ）等データ整備  
台帳原簿の印刷

#### ◎収蔵資料目録作成（上巻・下巻分冊）

#### ◎写真撮影及び写真整理作業

収蔵資料（重要資料）の写真撮影と写真・フィルムの整理・保管  
収蔵古写真の複製・整理作業  
歴史資料のマイクロ化

### III. 平成 14 年度事業実績

#### （1）資料整理作業

○各分野収蔵資料の分類・整理作業（台帳照合及び未登録資料の整理等）  
○自然史資料標本庫（植物標本庫）製作委託  
○民俗資料厨子がめ保管庫の増設・補強（委託）

#### （2）台帳電子化（コンピュータ化）作業（委託）

○収蔵資料管理用データベースシステムの整備  
○収蔵資料管理用データベースへのデータ入力（図書受入資料・新収蔵資料等）  
○データベースシステムの点検・拡張

#### 1 厨子ガメ整理棚製作委託業務

本館北側にある屋外厨子ガメ収蔵庫は、もともと屋外に置かれていた厨子ガメを遮蔽するために屋根と壁を部分的に取り付けた仮設施設であり、資料保存環境としては厳しいものがあった。とりわけ、平成 14 年 9 月の台風 16 号では、風雨激しく、瓦礫や飛来物が打ち込み、一部資料や棚板の損壊・劣化が著しかった。整理票がはずれたり、資料の落下の危険も生じたため、緊急な対応策が必要となつた。そのため、本館との空間に防水を兼ねた整理棚を増設するとともに、特に危険な箇所の棚板を補充した。

#### 2 視聴覚資料の整理業務

本館所蔵の視聴覚資料は、学芸資料や教育普及資料、未分類資料がかなりあるが、整理には相当な時間と手間がかかるうえ、視聴覚機器も不十分で、保存環境も厳しいものがある。フィルム資料は、酢酸臭が強く、カビのついたものも多く記録された貴重なデーターは、消失の危機に瀕している。そのため、予備的作業として、資料の仮リスト作成と、緊急性のあるフィルム等の応急保存措置を実施した。

資料の所在確認、資料の概数、種類に関する予備リスト作成、初期データー入力、資料開封して、保存・劣化状況の確認と軽易なクリーニング、ダビング作業等を実施した。

また、本年度は、教育庁文化課の資料や、旧琉球政府文化財保護委員会関係の映像・音声資料の一部も併せて整理してみた。これらの資料は、組踊り・舞踊・民謡・祭り等沖縄の文化財資料とし

て貴重な物であるが、本館資料よりも保存環境が、さらに劣悪である。新館建設に向けて、本館の資料整理事業の機会に、それらの資料も併せて緊急に調査・収集し、保存する必要がある。

## 6 資料貸出

- ①展覧会名：常設展「日本文化のあけぼの」  
主 催：国立歴史民俗博物館  
会 場：同上  
貸出期間：平成14年4月1日～平成15年3月31日  
貸出資料：考古資料／市来式土器 1点
- ②展覧会名：常設展示  
主 催：沖縄県平和祈念資料館  
会 場：同上  
貸出期間：平成14年4月1日～平成15年3月31日  
貸出資料：歴史資料・民俗資料・美術工芸資料／クリ形菓子器他38件60点
- ③展覧会名：常設展示  
主 催：沖縄県立埋蔵文化財センター  
会 場：同上  
貸出期間：平成14年4月1日～平成15年3月31日  
貸出資料：自然史資料／伊江島ゴヘズ洞穴産リュウキュウジカ化石 12点
- ④展覧会名：日本復帰30周年記念特別展「資料に見る沖縄の歴史」  
主 催：沖縄県公文書館  
会 場：沖縄県公文書館展示室  
貸出期間：平成14年4月22日～6月10日  
貸出資料：歴史資料／明孝宗勅諭 他 3件5点
- ⑤展覧会名：企画展「王府の絵師展」～琉球人が描いたもの～  
主 催：(財) 海洋博覧会記念公園管理財団  
会 場：首里城公園展示室  
貸出期間：平成14年4月3日～6月5日  
貸出資料：写真パネル／渡海觀音図・神猫図・那覇綱引図 3点
- ⑥展覧会名：日本復帰30周年記念特別展「資料に見る沖縄の歴史」巡回展  
主 催：沖縄県公文書館  
会 場：平良市総合博物館・石垣市立図書館  
貸出期間：平成14年6月11日～7月20日  
貸出資料：歴史資料／沖縄民政府印 1点
- ⑦展覧会名：夏休みイベント 特別展「ザ・夏休み！2002」  
主 催：(有) 東南植物楽園  
会 場：同上  
貸出期間：平成14年7月15日～9月5日  
貸出資料：写真パネル／ヤンバルクイナ 他21点
- ⑧展覧会名：企画展「宜野湾市の海と人～つながり」  
主 催：宜野湾市立博物館  
会 場：同上  
貸出期間：平成14年7月17日～9月4日  
貸出資料：民俗資料／ウミボーチャー他 5点
- ⑨展覧会名：沖縄総合事務局南部国道事務所30周年記念事業 実物・パネル展  
主 催：内閣府沖縄総合事務局 南部国道事務所  
会 場：パレット市民劇場  
貸出期間：平成14年7月22日～7月31日  
貸出資料：歴史資料／7・30関連資料 5点
- ⑩展覧会名：第43回企画展「沖縄の染め織り～その素材と色の植物」  
主 催：平良市総合博物館  
会 場：同上  
貸出期間：平成14年7月23日～9月6日  
貸出資料：自然史資料／植物標本31点 美術工芸資料／読谷山花織着物他7件16点  
写真パネル／オキナワサルトリイバラ他38点
- ⑪展覧会名：復帰30周年記念 沖縄展～響きあう風土と文化～」

- 主 催：朝日新聞社事業本部大阪企画事業部  
会 場：大丸ミュージアムKYOTO・大丸ミュージアムKOBE・岐阜市歴史博物館  
貸出期間：平成14年8月26日～12月8日  
貸出資料：歴史資料・民俗資料・美術工芸資料／進貢船模型他 55件57点  
写真パネル／宜野座の8月踊り 他24点
- ⑫展覧会名：沖縄復帰30周年記念「沖縄の切手2002」  
主 催：(財)日本郵趣協会／(財)切手の博物館  
会 場：財団法人 切手の博物館  
貸出期間：平成14年8月31日～9月9日  
貸出資料：美術工芸資料／琉球切手原画20点
- ⑬展覧会名：沖縄復帰30周年事業 沖縄文化祭  
主 催：沖縄県・(財)自治総合センター  
会 場：沖縄コンベンションセンター  
貸出期間：平成14年10月21日～10月28日  
貸出資料：歴史資料／7・30関連マスコット人形他7点 自然史資料／標本3点  
写真パネル／ノグチゲラ 1点
- ⑭展覧会名：八重山博物館開館30周年記念企画展「王国の工芸－伝承のわざとこころ」  
主 催：沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会・石垣市立八重山博物館  
会 場：石垣市立八重山博物館  
貸出期間：平成14年10月10日～11月6日  
貸出資料：美術工芸資料／平良敏子「芭蕉総絆」他 5点
- ⑮展覧会名：第22回伝統文化ポーラ賞 贈呈式  
主 催：(財)ポーラ伝統文化振興財団  
会 場：東京全日空ホテル  
貸出期間：平成14年10月15日～10月18日  
貸出資料：美術工芸資料／絹稻妻に花の丸文様衣裳（復元） 1領
- ⑯展覧会名：黎明館企画特別展「海を渡った人々」  
主 催：鹿児島県歴史資料センター黎明館  
会 場：同上  
貸出期間：平成15年1月15日～3月15日  
貸出資料：考古資料／市来式土器 1点
- ⑰展覧会名：合併記念展「沖縄の工芸－手わざの魅力－」  
主 催：久米島自然文化センター  
会 場：同上  
貸出期間：平成15年2月17日～平成15年4月7日  
貸出資料：美術工芸資料／金城次郎「魚文皿」他 5点
- ⑱展覧会名：金城美智子墨絵「光と影の世界」作品展  
主 催：金城美智子墨絵「光と影の世界」作品展実行委員会  
会 場：浦添市美術館  
貸出期間：平成15年3月7日～3月26日  
貸出資料：美術工芸資料／金城美智子作「Istoman-City (OKINAWA)」他 5点

## 7 煙蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈並びに収集活動で得た文化財や資料が約7万8千点余りある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の煙蒸による害虫駆除を年1回行っている。

平成14年度は12月2日から6日までの期間を閉館して実施した。履行場所等は、地下1階、2階の各収蔵庫のほかに各展示室、首里城正殿模型、扁額「徳高」、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって煙蒸し、その他の事務所・講堂はDDVP煙によって害虫駆除を行った。

### 煙蒸実施結果報告

場 所	内 容 積 m <sup>3</sup>	単位薬量 g/m <sup>3</sup>	投薬量 Kg	煙蒸種類	投入時間 h	残留ガス濃度 mg/トル	供試虫
1F 収蔵庫（大）	328	46.4	15.0	密 閉	24	21	全死
1F 収蔵庫（小）	48	52	2.5	"	"	27	"
2F 漆器収蔵庫	540	55.5	30	"	"	25	"
民俗展示室	1,357	51.5	70	"	"	20	"
美術工芸展示室	864	49.7	43	"	"	18	"
自然展示室	813	49.2	40	"	"	20	"
歴史展示室	2,162	50.8	110	"	"	18	"
地下収蔵庫	821	49.9	41	"	"	24	"
扁額「徳高」	5	200	1	包込み	"	33	"
首里城模型	48	52	2.5	"	"	22	"
湧田プレハブ	224	66.9	15	"	"	25	"

## VIII 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
沖縄県立博物館年報 第35号	定期	1,000	A4(89)	前年度の博物館活動の状況や概要
平成13年度新収蔵品展	定期	1,000	A4(19)	前年度受け入れた資料を紹介する展示会図録
復帰30周年記念特別展 「港川人展－元祖ウチナーンチュー」	不定期	1,000	A4(84)	復帰30周年記念特別展「港川人」展の図録で、港川人を詳しく紹介したもの。
沖縄県立博物館紀要 第29号	定期	1,000	A4(55)	学芸員の調査研究報告書
企画展「沖縄ナースものがたり～看護学校の青春群像～」	不定期	1,000	A4(14)	企画展「ナースものがたり」展の図録で、戦後の看護教育を概説したもの。
平成14年度博物館体験学習教室	定期	1,000	A4(53)	平成14年度教育普及事業として実施した児童生徒を対象とした体験教室の記録。
平成14年度ボランティア活動	定期	300	A4(69)	平成14年度ボランティアの活動内容報告。
博物館だより No.48	定期	1,500	A4(4)	当館の行事等を紹介する広報誌
博物館だより No.49	定期	1,500	A4(4)	当館の行事等を紹介する広報誌
年間行事案内リーフレット	定期	10,000	変形A4	平成14年度の年間行事案内
年間ポスター	定期	1,000	B2変形	平成14年度の年間行事案内
日本文リーフレット	定期	20,000	変形A4	当館の展示案内
英文リーフレット	定期	10,000	変形A4	当館の展示案内
第26回移動博物館リーフレット	定期	800	A4(16)	多良間村で開催された移動博物館の展示資料紹介

## IX その他の活動

### 1 沖縄県博物館協会

平成 14 年度沖縄県博物館協会（沖博協）の理事会・総会・春期研修会は、5 月 23 日（木）に、首里公民館を主会場として開催された。

理事会は沖縄県立博物館会議室において執り行われ、総会資料等のほか、特に今年度から実施される沖博協顕彰規定案の審議を行った。午後からは、首里公民館へ会場を移し 105 名の参加のもと平成 14 年度総会・春期研修会が開催された。今年は沖博協結成 25 周年に当たり、本来であれば記念式典により功労者を表彰する予定であったが、顕彰規程が総会で承認されれば功労者表彰はその年ごとにできるため、今回はその移行期に当たり表彰等ではなく、式典も廃止した。また 5 年おきに記念式典のため総会を沖縄県立博物館で行い、現地研修も行ってきたが、毎回同じ場所で現地研修を行うよりも、今年はそれらをやめ、総会とシンポジウムのみとした。

総会終了後「時代に対応するために」と題して、シンポジウムが行われた。

シンポジウムはまず南都計画の山内平三郎氏により「アウトドア活動に関する危機管理」と題して野外活動における安全配慮や、事故に係わる法律など事例を中心に基調講演が行われた。その後南風原文化センター大城和喜館長をコーディネーターとして、喜宝院蒐集館上勢頭芳徳学芸員、県平和祈念資料館玉津博克主査、南都計画山内平三郎氏、県立博物館玉城善哲学芸員の 4 名を加えて、児童生徒の「学校週 5 日制」「総合的な学習の時間」への対応、各館が行っている活動についての報告と、問題点が話し合われた。会場からも各館園の様子や質問などが活発に出され、抱えている問題の大きさを物語っていた。結局、ある程度の示唆は認められたが、これからの継続研究課題として引き続き検討することを確認し、研修を終えた。

シンポジウム終了後、同会場で情報交換会を行い、各館園の紹介を行い、時間までお互いの情報を交換していた。なお、今回の研修会は、これまで何回も研修会を開催してきた首里地区で行われるために、現地研修を取りやめ、1 日での日程を組み開催した。

秋期研修会の前に、協会の幹事会を開き、幹事に加え那覇近郊の館園から応援を頼みワーキンググループを結成のうえ今後の研修会の持ち方や、秋期研修会の研修内容についての話し合いを行っている。

秋期研修会は 10 月 17 日（木）と 18 日（金）の両日、石垣市立八重山博物館の担当で、58 名の参加のもと石垣市商工会館大ホールにて行われた。午後理事会において、来春の総会で表彰される顕彰者の検討がなされた。その後受付、研修会が始まるが、会員からの要望の多かった、「子どもと博物館」というテーマでシンポジウムを行った。知念勇恩納村博物館長をコーディネーターに、八重山博物館寄川和彦学芸員、名護博物館田仲康高主事、今帰仁村歴史文化センター仲原弘哲館長、平良市総合博物館棚原知子主事、壺屋焼物博物館赤嶺由紀子学芸員をパネリストに迎え、報告および活発な意見交換がなされた。その後の情報交換会においても引き続き活発な話し合いが交わされた。

2 日目の現地研修は、石垣市制 30 周年記念セレモニーに参加し、その際開会した伝統工芸展示会を見学した。その後石垣市南部を回るコースで、平和祈念資料館八重山分館を皮切りに、旧和宇慶墓など数カ所の遺跡や史跡を訪ねている。

平成 15 年度の総会及び春期研修会は 6 月ごろに名護市博物館、秋期研修会は 10 月ごろに奄美的名瀬市博物館で開催されることになっている。

### 2 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに相互会員の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として 1980 年 1 月に発足してから 23 年目を迎えた。本年度の

会員の内訳は、普通会員 462 名、準会員 3 名、賛助会員 8 社、家族会員 78 家族（168 名）となっており、近年は家族ぐるみで博物館友の会と関わりを持つ人が増えてきている。また、友の会の活動も年間を通しての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。

平成 14 年度の活動内容と事業内容は次のとおりであった。

## 1. 事 業

- (1) 文化キャラバン隊：6月 21 日（金）～22 日（土）  
多良間島で開催された移動博物館の文化キャラバン隊として参加し、受付や解説の補佐を行った。（参加者：7 名）
- (2) 離島研修：6月 23 日（日）  
「古宇利島研修」を今帰仁村歴史文化センター館長仲原弘哲氏の解説で実施した。  
(参加者：24 名)
- (3) 収蔵品解説会：7月 28 日（日）  
歴史室の解説を当館学芸員園原謙氏の解説で実施した。（参加者：20 名）
- (4) 施設見学会：8月 10 日（土）  
恩納村博物館の見学会を恩納村博物館館長知念勇氏の案内で実施した。（参加者：40 名）
- (5) 展示室解説会：9月 7 日（土）  
特別展「港川人」展の展示解説を当館学芸員宮城勉氏の解説で実施した。  
(参加者：18 名)
- (6) 海外研修旅行：9月 14 日（土）～21 日（土）  
「中国福建省・客家の土楼巡りと武夷山・九曲渓筏下りの旅」をテーマに、沖縄大学教授緒方修氏の解説で研修旅行を実施した。（参加者：28 名）
- (7) 離島研修：9月 21 日（土）～22 日（日）  
旧 8 月 15 日十五夜に行われる「月まつり」の見学を中心とした久高島研修を琉球大学教授赤嶺政信氏の解説で実施した。（参加者：20 名）
- (8) 体験教室：10月 12 日（土）・26 日（土）・11月 9 日（土）  
「アンツク・アンディラの製作」を材料集め・作製・仕上げと 3 日間かけて実施した。  
(参加者：12 名)
- (9) 自然観察会：10月 13 日（日）  
「カルスト見学会」を真和志高校教諭神谷厚昭氏の解説で実施した。（参加者：21 名）
- (10) 県外研修旅行：11月 1 日（金）～11月 3 日（日）  
「大阪のコリアン文化にふれる」をテーマに当館教育普及課長前田真之氏の解説で研修旅行を実施した（参加者：10 名）
- (11) 講演会：11月 17 日（日）  
「グスクのはなし」をテーマに当館館長當眞嗣一氏を講師に迎え講演会を実施した。  
(参加者：198 名)
- (12) 南部のグスクめぐり：12月 14 日（土）  
「南部のグスクめぐり」を会員の与儀達憲氏を講師に迎え実施した（参加者：38 名）
- (13) 体験教室：1月 12 日（日）  
「ほうき作り」を会員の宮国昭男氏を講師に迎え体験した。（参加者：8 名）
- (14) 海外研修旅行：2月 3 日（月）～10 日（月）  
「ベトナム縦断世界遺産巡り」をテーマに那覇市教育委員会文化課課長金武正紀氏の解説で研修旅行を実施した。（参加者：31 名）
- (15) 首里周辺めぐり：2月 8 日（土）  
末吉・大名を中心に会員の阿波根直孝氏を講師に招いて首里周辺めぐりを実施した。  
(参加者：32 名)
- (16) 講演会 11月 17 日（日）

「沖縄のトイレ文化史～フル（豚便所）から水洗まで～」をテーマに沖縄県動物愛護センター所長平川宗隆氏を講師に迎え実施した。（参加者：166名）

2. 会員への情報提供事業

- 博物館事業及び催し物の案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

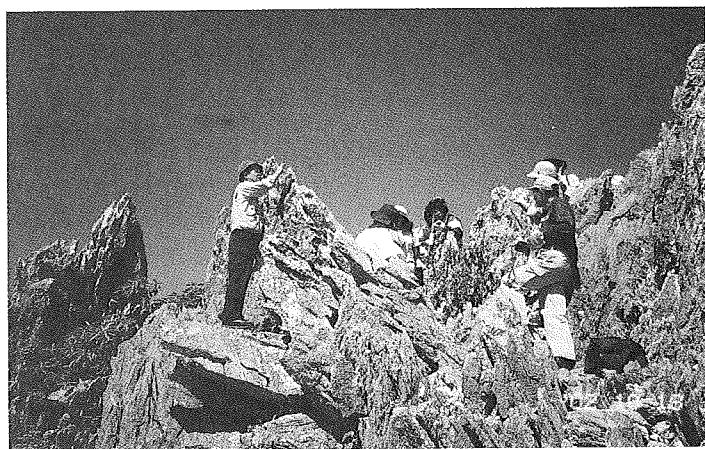
3. 会誌（博友）16号・会報（赤い瓦）23号の発行

4. ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・切手・フィルム・飲み物等の販売サービス

5. その他

- サークル活動： グスクサークル、民俗サークル
- 総会及び懇親会（2002年5月27日） 参加者：54人
- 新年会（2003年1月20日） 参加者：51人



カルスト見学会

講師：神谷厚昭氏（高等学校教諭）



体験学習への協力

（移動博物館 多良間島）

## X 関係法規抄録

○博物館法 昭和 26.12. 法律第 285 号

[最近改正] 平成 13.7.11 法律第 105 号

### 第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治 29 年法律第 89 号）第 34 条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第 34 条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。  
(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

(1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。

(2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。

(3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に關し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。

(4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

(5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。

(6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

(7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

(8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。

(9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

(10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに當つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第56条の規定により大学に入学することができる者は、学芸員補となる資格を有する。

第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

第9条 削除

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
- (2) 名称
- (3) 所在地

2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。

- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録した旨を当該申請書に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で登録申請書に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項に重要な変更があつたときは、その旨を都道府県教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第 14 条 都道府県の教育委員会は、博物館が第 12 条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむ得ない事由により要件を欠くに至った場合においては、その要件を欠くに至った日から 2 年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定による登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第 15 条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第 16 条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県教育会の規則で定める。

第 17 条 削除

第 3 章 公立博物館

(設置)

第 18 条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第 19 条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第 20 条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第 21 条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第 22 条 博物館の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

2 削除

(入館料)

第 23 条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情がある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第 24 条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する軽費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第 25 条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第 26 条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第 24 条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第 1 号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第 3 号及び第 4 号に該当する場合には、既に交付した当

該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

#### 第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

#### 第5章 雜則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあつては文部大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

#### 附 則

(施行期日)

1 この法律は、交付の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等 以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 昭和27.3.20 政令第47号

[最近改正] 昭和34年4月30日政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法（以下「法」という。）第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

#### 附 則

この政令は、交付の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例（抄） 昭和 47. 5. 15 条例第 24 号

〔最終改正〕 平成 6 年 12 月 27 日 条例第 42 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 30 条、図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）第 10 条及び博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 18 条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第 5 条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称 位 置

沖縄県立博物館 那覇市首里大中町 1 丁目 1 番地

2 博物館は、博物館法第 3 条第 1 項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第 6 条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10 人以内とする。

3 委員の任期は、2 年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前 2 項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（抄） 昭和 47. 5. 15 教育委員会規則第 2 号

〔最終改正〕 平成 10 年 3 月 31 日教育委員会規則第 5 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和 47 年沖縄県条例第 24 号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第 4 条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

(1)予算、決算その他会計事務に関すること。

(2)公印の管守に関すること。

(3)施設設備の管理に関すること。

(4)職員の服務及び福利厚生に関すること。

(5)博物館協議会に関すること。

(6)他課の所掌に属さない事務に関すること。

学芸課

(1)博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。

(2)博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。

(3)博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。

(4)博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

教育普及課

(1)博物館資料の利用相談に関すること。

(2)展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。

(3)学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則 昭和 47. 5.15 教育委員会規則第 13 号  
〔最終改正〕平成 12 年 3 月 30 日教育委員会規則第 17 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第 2 条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第 3 条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第 4 条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損修し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示をうけなければならない。

(警備防災の計画)

第 5 条 消防法（昭和 23 年法律第 186 号）第 8 条第 1 項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第 6 条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和 47 年沖縄県教育委員会訓令第 4 号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第 7 条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第 8 条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和 53 年沖縄県教育委員会訓令第 2 号）の定めるところによる。

(開館時間)

第 9 条 博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第 10 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1)定期休館日 月曜日

(2)国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）の規定する日（子どもの日及び文化の日を除く。）

(3)慰霊の日 6 月 23 日

(4)年始休館日 1 月 2 日から 1 月 4 日

(5)年末休館日 12 月 28 日から 12 月 31 日

(6)臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第 2 号及び第 3 号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日のおいて最も近い休館日でない日をもつて、これを替えるものとする。

3 前 2 項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

(寄贈及び寄託)

第 11 条 博物館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第 1 号様式）又は寄託

申込書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

（寄託資料の保管）

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

（寄託資料の返付）

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

（経費の負担）

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

（入館料の交付）

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

（入館料の免除）

第16条の2 沖縄県立教育機関使用徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）第4条规定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1)県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合

(2)県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週5日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合

(3)前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

2 前項第1号又は第3号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書（第4号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

（入館の禁止等）

第17条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1)館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者

(2)伝染病患者及び潜伏している者と認められる者

(3)その他館長が適当でないと認められる者

（施設使用の許可等）

第18条 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下、同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第5号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合には博物館施設の使用を許可することができる。

(1)専ら営利を目的とする事業を行うもの

(2)特定の政党の利害に関する事業を行い又は公務の選挙に関し特定の候補者を支持するもの

(3)特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの

(4)社会教育上不適切であると認められるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なとき限り、使用の対価を徴収することができる。

（現状回復の義務）

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び附属設備を現状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第 20 条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し、又は免除することができる。

(報告)

第 21 条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月 10 月までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第 22 条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則 (平成 12 年 3 月 30 日教育委員会規則第 17 号)

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館館長 殿	申込者
私所有的下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領され よう申込みます。	住所 氏名
記	
1 種別	2 作者名
3 作品名	4 製作年月日
5 附属品	6 資料の所在地
7 時価見積額	8 寄贈の理由

受諾書	平成 年 月 日
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料について は、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規 則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	印
沖縄県立博物館長	

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄託申請書	平成 年 月 日
沖縄県立博物館長 殿	申請者
私所有的下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受諾くださ るよう申込みます。	住所 氏名
記	
1 種別	2 作者名
3 作品名	4 製作年月日
5 附属品	6 資料の所在地
7 寄託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで

## 第3号様式（第11条関係）

## 第4号様式（第16条の2関係）

博物館資料受託承認書	
平成 年 月 日	印
殿	沖縄県立博物館長
平成 年 月 日	付け申請のあった博物館資料の寄託に ついては、下記により受託します。
記	
1 種別	
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 受託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで
7 備考	

入館料免除申請書	
平成 年 月 日	印
沖縄県立博物館長 殿	申請者住所 氏名 _____ 電話 _____
下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号）第16条の2第2項の規定に基づき申請します。	
記	
1 入館者 団体名	引率者名 _____
2 入館者数 人	_____
3 入館日時 年 月 日 ( 曜日 )	時 ~ 時
4 申請理由	.....
承認証	
年 月 日	日付け申請の博物館の入館料免除の件、申請 どおり承認します。
年 月 日	印
沖縄県立博物館長	

○沖縄県立博物館協議会規則 昭和 47. 10. 2 教育委員会規則第 29 号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和 47 年沖縄県条例第 24 号）第 6 条第 4 項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に關し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員 10 人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は 2 年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営について必要な事項は、会長が協議会にはかって定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例

昭和 47. 5. 15 条例第 37 号

[最終改正] 平成 9 年 7 月 16 日条例第 23 号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 228 条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第 1 又は別表第 2 に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500 円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第 2 条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に

対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

#### 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成9年7月16日条例第23号）

この条例は、平成9年8月1日から施行する。

#### 別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一 般	210円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

#### ○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領（平成14年3月14日教育長決裁）

(目的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

- (1) 展示会等における原資料等の借用
- (2) 同資料の撮影
- (3) 原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用
- (4) 撮影等による複製品の製作
- (5) 原資料等の閲覧
- (6) 教育普及資料の借用

(許可の基準)

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

- (1) 資料の保存に悪影響が生じると認められる場合
- (2) 好ましくない用途に供されると認められる場合
- (3) 館の事務処理に支障が生じると認められる場合
- (4) 資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得てない場合
- (5) 過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合
- (6) その他、許可することが適当でないと認められる場合

(許可申請の手続き)

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

- (1) 原資料等の借用（第1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2号様式）
- (3) 複製品の製作（第3号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5号様式）

（審査及び決定）

第5条 前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

- (1) 事業の趣旨及び内容
- (2) 事業の主体者
- (3) 事業計画
- (4) その他必要な事項

（許可書の交付）

第6条 資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおりの条件を不した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

- (1) 原資料等の借用（第1-1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2-1号様式）
- (3) 複製品の製作（第3-1号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4-1号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5-1号様式）

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

#### 附 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

別表（第6条関係）各申請の資料利用の許可条件

利 用 申 請 の 内 容 (各申請様式)		資 料 利 用 の 許 可 条 件
共 通 条 件		個 別 条 件
原資料等の借用 (第1号様式)	<p>①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。            ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。            ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。            ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。            ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。</p>	<p>①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。            ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。            ③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。            ④借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。</p> <p>①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。            ②製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。            ③写真原板の貸与期間は3週間以内とする。            ④郵送費は申請者が負担すること。            ⑤資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。            ②撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。            ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。            ④製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。            ⑤写真原板の貸与期間は3週間以内とする。            ⑥資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p> <p>①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。            ②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。            ③閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。</p> <p>①貸与期間は1週間以内とする。            ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。            ③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。            ④万一事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。</p>
写真撮影、原板・印画の借用 (第2号様式)		
複製品の製作 (第3号様式)		
原資料等の閲覧 (第4号様式)		
教育普及資料の借用 (第5号様式)		

第1号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(原資料等の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名:

印

団体名:

(担当者氏名 )

住所 (〒 )

TEL: fax:

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。

記

事業名		
借用希望期間	平成 年 月 日 ~ 月 日	
目的		
展示等場所		
資料名	員数	備考
1		
2		
3		
4		
5		

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第1-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(原資料等の借用)

博物  
平成 第年 月 号日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事業名		
借用期間	平成 年 月 日 ~ 月 日	
目的		
展示等場所		
資料名	員数	備考
1		
2		
3		
4		
5		

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。  
前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

## 第2号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(写真撮影、原板・印画の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名:

印

団体名:

(担当者氏名 )

住所 (〒 )

TEL: fax:

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮 影      3 掲載			
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目 的	事項	名称	部数	製作予定日
	出版物 映 画 テ レ ビ ビ デ オ D V D C D そ の 他			
資 料 名		仕様	数量	備 考
1				
2				
3				
4				
5				

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、C D等を当館に無償で1部（1点）納付すること。  
納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(写真撮影、原板・印画の借用)

博物 第年月号

北海道泡盛同好会  
担当者 石原 昌則 殿

沖縄県立博物館長

平成15年4月30日付けで申請のあった資料の利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的	区分事項	名称	部数	製作予定日	備考
	出版物 映画 テレビ ビデオ DVD CD その他				
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					
5					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。  
納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書  
(複製品の製作)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名:

印

団体名:

(担当者氏名)

)

住所(〒 )

TEL: fax:

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数		販売価格	円
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
  - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
  - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
  - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
  - ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
  - ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
  - ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
  - ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
  - ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。  
納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
  - ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
  - ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第3-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(複製品の製作)

博物 第月 号  
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった特別利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格	円
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。  
納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書  
(原資料等の閲覧)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名:

印

団体名:

(担当者氏名 )

住所(〒 )

TEL: fax:

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果(論文や著作等)は、当館に1部(1点)納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第4-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(原資料等の閲覧)

博物 第 号  
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
担当学芸員			
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第5号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(教育普及資料の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名:

印

団体名:

(担当者氏名 )

住所 (〒 )

TEL: fax:

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 学校(学年・学級)行事 2 地域・団体行事 3 その他		
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 ( 時 ) ( 時 )		
行事名			参加人員
目的			
資料名	数量	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第5-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(教育普及資料の借用)

博物 第年 月 号  
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 学校(学年・学級) 行事 2 地域・団体行事 3 その他	行事名	
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 ( 時 ) ~ ( 時 )		
目的			
資料名	数量	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
  - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
  - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
  - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
  - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
  - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
  - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
  - ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
  - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

**沖縄県立博物館年報 No.36**

発行日：2003年6月13日

編集・発行：沖縄県立博物館

住所：〒903-0823 那覇市首里大中町1-1

TEL 098-884-2243 FAX 098-886-4353

ホームページ：<http://w1.nirai.ne.jp/oki-muse/>

印 刷：(有)若葉印刷

住所：〒900-0024 那覇市古波蔵339番地

TEL 098-834-3429

2003年度 沖縄県立博物館年間行事一覧

○特別企画展

沖縄織物へのメッセージ

～田中俊雄の研究～ . . . . . 2003年10月28日（火）～12月7日（日）

特別文化講演会 田中俊雄～沖縄の織物とその研究～

講師：吉岡幸雄（染織研究家）

11月1日（土）

文化講座 地機の話

講師：幸喜新（沖縄市商工労政課嘱託）

11月22日（土）

ギャラリートーク 小野まさ子（（財）文化振興会公文書館管理部史料編集室主任専門員）

11月15日（土）

ギャラリートーク 與那嶺一子（県教育庁文化施設建設室主任専門員）

12月6日（土）

○企画展

新収蔵品展 . . . . . 2003年6月10日（火）～7月6日（日）

旅する種子 . . . . . 2003年7月15日（火）～8月31日（日）

～運ばれるための巧妙なしきけ～

沖縄の文化財展戦前の文化財保護 . . . . . 2004年2月10日（火）～2月29日（日）

～仲座久雄の活動～

○第28回 移動博物館—伊平屋村— . . . . . 2003年11月21日（金）、22（土）

○博物館文化講座

第333回 刻まれた歴史～金石文いろいろ～ . . . . . 2003年5月25日（日）

講師：崎間麗進（郷土史家）

第334回 身のまわりの自然をさぐる～ゲッチョ先生の骨の教室～ . . . . . 6月21日（土）

講師：盛口 満（フリースクール講師）

第335回 沖縄の星の民話 . . . . . 7月12日（土）

講師：知念正永（郷土史家）

第336回 琉球絵画のはなし . . . . . 8月9日（土）

講師：津波古聰（県立博物館学芸課長）

第337回 沖縄の文化財保護のあゆみ . . . . . 9月13日（土）

講師：園原謙（県教育庁文化施設建設室主任）

第338回 島の植物とくらしの道具～アダン・カヤ・ツルの利用～ . . . . . 9月28日（日）

講師：桃原茂夫（糸満高等学校教頭）

第339回 古写真にみる沖縄のうつりかわり . . . . . 10月19日（日）

講師：野々村孝男（歴史研究家）

第340回 地機の話 . . . . . 11月22日（土）

講師：幸喜新（沖縄市商工労政課嘱託）

第341回 貝塚時代のアクセサリー . . . . . 12月20日（土）

講師：島袋春美（沖縄考古学会会員）

第342回 グスク巡り . . . . . 2004年1月25日（日）

講師：當眞嗣一（県立博物館館長）

第343回 亜熱帯林に生きる動物たち～25年のフィールドワークを通して～ . . . . . 2月21日（土）

講師：田中聰（県立博物館指導主事）

第344回 白とくらし . . . . . 3月13日（土）

講師：桃原茂夫（糸満高等学校教頭）

○博物館体験学習教室（定員あり）

①サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう・4月26日/10月18日/2004.1月17日/1月18日

②総合的な学習のための豆腐づくり . . . . . 5月24日（土）

③しつくいシーサーをつくろう . . . . . 7月26日（土）

⑤竹のおもちゃをつくろう . . . . . 8月16日（土）

⑥ふうたんをつくろう . . . . . 11月8日（土）/11月15日（土）/11月29日（土）

⑦総合学習のための黒砂糖づくり . . . . . 12月13日（土）

○博物館シアター（会場：県立博物館講堂、開演時間：午後2時～）

映像で見る「沖縄伝統工芸の世界」

①琉球漆器～堆錦～（カラースランダード・30分） . . . . . 5月11日（日）

喜如嘉の芭蕉布～結の手わざ～（カラースランダード・30分）

②紬の里～久米島～（カラースランダード・30分） . . . . . 6月15日（日）

琉球藍～栽培から製造まで～（カラースランダード・30分）

夏休み「子ども映画館」

①ガメラ～大怪獣空中決戦～（カラービスタ・約95分） . . . . . 8月3日（日）

②ゴジラ（カラービスタ・約103分） . . . . . 8月17日（日）

映像で考える「家族」

①晩秋日本語字幕版（カラースランダード・約118分） . . . . . 12月21日（日）